

学校法人東京農業大学の活動と財務

平成 28 年度 事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

学校法人 東京農業大学

- ◆東京農業大学
- ◆東京情報大学
- ◆東京農業大学短期大学部
- ◆東京農業大学第一高等学校
- ◆東京農業大学第二高等学校
- ◆東京農業大学第三高等学校
- ◆東京農業大学第一高等学校中等部
- ◆東京農業大学第三高等学校附属中学校

学校法人東京農業大学



東京農業大学/東京農業大学短期大学部(世田谷キャンパス)



東京農業大学 農学部(厚木キャンパス)



東京農業大学 生物産業学部(オホーツクキャンパス)



東京情報大学



東京農業大学第一高等学校
東京農業大学第一高等学校中等部



東京農業大学第二高等学校



東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校

目 次

I	平成28年度事業報告にあたって	2
II	学校法人の概要	
1	二人の学祖	3
2	沿革	4
3	設置する学校・学部・学科等	5
4	設置する学校・学部・学科等の入学定員、学生生徒数	6
5	設置する学校・学部・学科等の学年別学生生徒数	8
6	役員・教職員の概要	
	(1) 役員・評議員	10
	(2) 教職員数	11
III	事業の概要	
1	学校法人の取組み	12
2	教育の推進	
	(1) 東京農業大学・同短期大学部	15
	(2) 東京情報大学	17
	(3) 東京農業大学第一高等学校・同中部	18
	(4) 東京農業大学第二高等学校	20
	(5) 東京農業大学第三高等学校・同附属中学校	21
3	研究の推進	
	(1) 東京農業大学	22
	(2) 東京情報大学	23
4	国際連携の推進	
	(1) 東京農業大学・同短期大学部	24
	(2) 東京情報大学	27
5	教育研究施設設備等の整備（主要事業）	28
6	平成28年度卒業生進路（学校別）	30
7	平成29年度入学試験（推薦・一般・センター入試等の合計）	32
IV	財務の概要	
1	資金収支計算書	34
	活動区分資金収支計算書	35
2	事業活動収支計算書	36
3	貸借対照表	38
4	財産目録	39
5	資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表の経年比較	
	(1) 資金収支計算書の経年比較	40
	(2) 事業活動収支計算書の経年比較	41
	(3) 貸借対照表の経年比較	42
6	財務比率の経年比較	
	(1) 事業活動収支計算書財務比率の推移	43
	(2) 貸借対照表財務比率の推移	43

I 平成28年度事業報告にあたって



学校法人東京農業大学
理事長 大澤 貴寿

学校法人東京農業大学の柱東京農業大学は、明治24年に榎本武揚によって徳川育英会「育英饗農業科」として創立され、平成28年度創立125年を迎えました。創立125周年記念にあたり、秋篠宮文仁親王殿下をお迎えし、百周年記念講堂に於いて記念の式典及び祝賀会を盛大に開催しました。記念事業としては、創立者榎本武揚の功績を再評価するシンポジウムならびに次年度開設予定の新学部、学科の増設の社会的要請とその意義に関するシンポジウムなどを実施しました。

創設以来これまでの間、榎本武揚の教育への思い「冒険は最良の師」と横井時敬の「イネのことはイネに聞け」の実学教育を実践し、その時代にふさわしい人材を養成してきました。これからも時代的要請を的確に捉え二人の学祖の教育・研究への思いをそれぞれの部門で実践することが学校法人東京農業大学の新たな成長の原点となります。

学校法人東京農業大学は、平成27年度に将来構想「法人学園化」とその実現のための「中期計画(N2018)」を定め、教育研究の改革に取り組んでいます。

法人学園化は、東京農業大学のあらゆる資源を活かした小学校を新設することで、小学校から大学院まで一貫して、二人の学祖が唱えた教育方針を実践し、新しい知や価値を創造し社会の発展と安定に寄与する人材を輩出する学園となることです。学園化によって教育・研究の充実・発展のもと健全な経営を持続させ「農大ブランド」をより強固にします。その実現のための中期計画(N2018)は、「教育組織の改革」、「教育・研究の推進」、「海外戦略」、「教育・研究の環境(施設設備)整備」、「社会貢献」、「小学校設置」を重要課題と位置付け、各学校の将来あるべき姿に向けて改革を実行するものです。

東京農業大学、東京情報大学では、平成29年度に学部学科新設と既存学科の改組を行う教育組織改革に取り組み、先端・基盤研究を推進することによって教育の高度化に反映していきます。

高等学校では、平成27年度に第二高等学校、平成28年度に第三高等学校へ進学実績の向上と課外活動を強化をするコース制を導入しました。第一高等学校は、最難関・難関大学への進学実績が向上し、その成果が見られました。

教育・研究の環境(施設設備)整備では、大規模事業である東京農業大学世田谷キャンパス新研究棟建設に着手し平成31年10月竣工予定で進めています。さらに各学校の環境(施設設備)の充実にも年次計画で取り組んでいます。

新設する小学校を「東京農業大学稲花小学校」としました。稲花は「農大の花」であり、小さな存在だが自然の不思議さや小さな命の尊さを表し種実をつけ豊穡をもたらす象徴として、二人の学祖が唱えた実学による教育方針を実践し子供たちが大きく成長していくことを願ったものです。平成31年4月開校予定で準備を進めています。

学校法人東京農業大学は、学園が一体となって社会の負託に応えるために、財政計画の基本理念を「経営の安定なくして教育研究の充実・発展なし」に置き、教学の質的発展事業に重点的に投資し、主体性・安定性・健全性・社会性のある財政を構築します。

平成29年5月5日

II 学校法人の概要

1 二人の学祖



創設者 榎本武揚



初代学長 横井時敬

学校法人東京農業大学が設置する学校は、東京農業大学、東京情報大学、東京農業大学短期大学部、第一高等学校、第二高等学校、第三高等学校、第一高等学校中等部、第三高等学校附属中学校の8校です。これら設置学校の学生生徒総数は、19,504名（平成28年5月1日現在）です。学校法人東京農業大学の中核である東京農業大学は、明治24年3月6日、徳川育英会を母体とした私立育英農農業科として東京市麹町区飯田河岸第4号の3（現在のJR飯田橋駅構内）に創立されました。創設者は、子爵榎本武揚です。その後、大正14年5月18日、旧大学令による財団法人東京農業大学となりました。

初代学長は、近代農学の祖、横井時敬博士です。東京農業大学は、私学の農学系大学では戦前唯一の大学で、我が国で最も歴史が古く、学生数、教員数で我が国最大規模の農学系総合大学に発展し平成28年度で創立125年目を迎えました。

東京農業大学の建学の理念は、「人物を畑に還す」であり、教育の理念は「実学主義」です。実学主義とは、社会の現実を直視し、考証的な研究を基礎として諸々の改革を提唱する実用的で実際の学問のあり方をいいます。横井時敬博士はこのことを「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」の言葉で表しました。これらの理念は、学校法人東京農業大学傘下の各学校における教育理念の支柱となっています。

東京情報大学の建学の精神は「未来を切り拓く」、教育の理念は「現代実学主義」です。この教育理念に基づき、急速に進展しつつある情報社会の将来を見据え、その変化に適切に対応できる基礎的学力と応用的知識・技術を習得し、優れた情報収集、処理、発信能力をもち、情報社会の形成に貢献できる人材の養成を目指しています。

中学・高校部門の教育理念は、生みの親である子爵榎本武揚と育ての親である横井時敬博士の生き様や人となりから導かれたもので、第一高等学校・同中等部が「知耕実学（実学で自分の『知・能力』を耕し深める）」、第二高等学校が「何事に対しても主体的に取り組める人材の育成」、第三高等学校・同附属中学校が「不撓不屈の精神」、「旺盛な科学的探究心」、「均整のとれた国際感覚」を其々の理念に掲げ、各学校は、生徒一人ひとりの個性と学力を伸ばし、健全な精神と、実行力に富む国際人の育成を目指しています。

創設者 榎本武揚（えのもと たけあき・1836-1908）

幕臣榎本円兵衛武規の次男として江戸御徒町に生まれる。長崎海軍伝習所を卒業後幕府第一号留学生としてオランダに留学し、蒸気機関学、航海術、化学、国際法を学ぶ。幕府海軍副総裁。函館五稜郭で明治新政府軍と戦い敗れたが、その才能が惜しまれ明治政府で通信大臣（初代）、文部大臣、外務大臣、農商務大臣を歴任。ロシア特命全権公使（1875年千島・樺太交換条約調印）、地学協会副会長、日本家禽協会会長、日本気象学会会頭など政界、官界、学会に貢献。子爵の位を授かる。育英農農業科（現東京農業大学）を創設。東京農業大学の生みの親。享年73歳。

初代学長 横井時敬（よこい ときよし・1860-1927）

肥後国熊本城下に藩士久右衛門兵時教の四男として生まれる。東京駒場農学校農学本科を卒業、東京帝国大学農科大学教授（農学博士）。種籾の塩水選種法（高塩分濃度塩水に種籾を浮かべ種籾の良悪を判断できる）を考案。『稲作改良法』、『栽培汎論』、『小説 模範町村』を著す。農学者、農業経済学者、農政思想家。1895年榎本武揚の招聘で東京農学校（現東京農業大学）評議員就任。1907年大日本農会附属私立東京高等農学校校長、1911年東京農業大学初代学長に就任。農業の担い手、農村のリーダー教育を目的に質実剛健、独立不羈、自強不息の気風高揚に努め、実学を重視した東京農業大学の育ての親。享年67歳。正三位勲一等瑞宝章を授かる。

2 沿革

年号	年月日	沿革
明治	24. 3. 6	東京市麹町区飯田河岸第4号の3(現在のJR飯田橋駅構内)に徳川育英会を母体とした私立育英農農業科を設置。管理長に榎本武揚, 譽長に永持明德就任
	25. 10. 23	東京市小石川区大塚窪町25番地に移転し, 譽名を私立育英農分農農業科と改称。譽長に伊庭想太郎就任
	26. 5. 11	私立育英農分農農業科を私立東京農学校と改称。校主に榎本武揚, 校長に伊庭想太郎就任
	30. 1. 16	私立東京農学校, 大日本農会の附属となり, 横井時敬が教頭に就任し, 校長代理となる。
	31. 10. 13	東京府豊多摩郡渋谷村(現渋谷区)常盤松(昭和3年常磐松と改称)101番地の第三号御料地内に移転
	34. 7. 15	大日本農会附属私立東京高等農学校と改称
	35. 3. 15	設立者代表に石坂橋樹, 校長に田中芳男就任
	36. 8. 21	私立東京高等農学校が専門学校令による許可を受ける。
	40. 1. 23	校長に横井時敬就任
	44. 11. 16	私立東京農業大学(大学部本科, 予科, 高等科)と改称し, 初代学長に横井時敬就任
大正	14. 5. 18	財団法人東京農業大学の設立認可を受ける。大学令による東京農業大学となり, 農学部農学科及び予科を設置。学長兼理事長に横井時敬就任
昭和	21. 3. 29	世田谷の現在地(旧陸軍機甲整備学校跡)に移転完了
	24. 2. 21	学校教育法による新制大学(東京農業大学農学部)設置認可
	25. 4. 1	東京農業大学短期大学開設 東京農業大学附属第一高等学校(全日制普通科)開設
	28. 4. 1	東京農業大学大学院農学研究科開設
	37. 4. 1	東京農業大学第二高等学校(全日制普通科)を群馬県高崎市に開設
	50. 6. 1	東京農業大学成人学校(各種学校)の設置認可
	60. 4. 1	東京農業大学第三高等学校(全日制普通科)を埼玉県東松山市に開設
	63. 4. 1	東京情報大学経営情報学部を千葉県若葉区に開設
平成	元. 4. 1	東京農業大学オホーツクキャンパスを北海道網走市に開設(生物産業学部)
	2. 3. 29	東京農業大学短期大学を東京農業大学短期大学部に名称変更認可
	3. 5. 18	東京農業大学創立100周年記念式典を挙行
	4. 4. 1	東京情報大学大学院経営情報学研究科開設
	5. 4. 1	東京農業大学大学院生物産業学研究科開設
	10. 4. 1	東京農業大学厚木キャンパス開設(農学部が移転)
	10. 4. 1	東京農業大学学部学科改組(農学部, 応用生物科学部, 地域環境科学部, 国際食料情報学部の4学部)に改組)
	13. 4. 1	東京情報大学学部学科改組(経営情報学部から総合情報学部)に名称変更)
	17. 4. 1	東京農業大学第一高等学校中等部を開設
	21. 4. 1	東京農業大学第三高等学校附属中学校を開設
	28. 5. 21	東京農業大学創立125周年記念式典を挙行



常盤松の学校本部 (明治後期に撮影)



横井博士記念講堂 (昭和6年完成)



世田谷キャンパス



厚木キャンパス



オホーツクキャンパス



東京情報大学



東京農業大学第一高等学校・中等部



東京農業大学第二高等学校



東京農業大学第三高等学校・附属中学校

3 設置する学校・学部・学科等

<学校等の名称>	<開設年度>	
東京農業大学		
大学院農学研究科		
農学専攻	前期課程 昭和 28 年	後期課程 昭和 37 年
畜産学専攻	前期課程 昭和 61 年	後期課程 平成 2 年
バイオセラピー学専攻	前期課程 平成 22 年	後期課程 平成 24 年
バイオサイエンス専攻	前期課程 平成 14 年	後期課程 平成 16 年
農芸化学専攻	前期課程 昭和 32 年	後期課程 昭和 34 年
醸造学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
食品栄養学専攻	前期課程 昭和 61 年	後期課程 平成 14 年
林学専攻	前期課程 昭和 61 年	後期課程 平成 2 年
農工工学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
造園学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
国際農業開発学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
農業経済学専攻	前期課程 昭和 28 年	後期課程 昭和 37 年
国際バイオビジネス学専攻	前期課程 平成 14 年	後期課程 平成 16 年
環境共生学専攻	後期課程 平成 2 年	
大学院生物産業学研究科		
生物生産学専攻	前期課程 平成 22 年	
アкваバイオ学専攻	前期課程 平成 22 年	
食品香粧学専攻	前期課程 平成 22 年	
産業経営学専攻	前期課程 平成 22 年	
生物産業学専攻	前期課程 平成 5 年	後期課程 平成 7 年
農学部		
農学科	昭和 24 年	
畜産学科	昭和 24 年	
バイオセラピー学科	平成 18 年	
応用生物科学部		
バイオサイエンス学科	平成 10 年	
生物応用化学科	平成 10 年	
醸造科学科	平成 10 年	
食品安全健康学科	平成 26 年	
栄養科学科		
食品栄養学専攻	平成 10 年	
管理栄養士専攻	平成 10 年	※平成 26 年 栄養科学科へ名称変更
地域環境科学部		
森林総合科学科	平成 10 年	
生産環境工学科	平成 10 年	
造園科学科	平成 10 年	
国際食料情報学部		
国際農業開発学科	平成 10 年	
食料環境経済学科	平成 10 年	
国際バイオビジネス学科	平成 10 年	
生物産業学部		
生物生産学科	平成元年	
アкваバイオ学科	平成 18 年	
食品香粧学科	平成元年	
地域産業経営学科	平成元年	
東京情報大学		
大学院総合情報学研究科		
総合情報学専攻	前期課程 平成 4 年	後期課程 平成 11 年
総合情報学部		
情報システム学科	平成 13 年	
環境情報学科	平成 13 年	
情報ビジネス学科	平成 13 年	
情報文化学科	平成 8 年	
総合情報学科	平成 25 年	
東京農業大学短期大学部		
生物生産技術学科	平成 4 年	
環境緑地学科	平成 4 年	
醸造学科	昭和 25 年	
東京農業大学第一高等学校		
(全日制の課程) 普通科	昭和 25 年	
東京農業大学第二高等学校		
(全日制の課程) 普通科	昭和 37 年	
東京農業大学第三高等学校		
(全日制の課程) 普通科	昭和 60 年	
東京農業大学第一高等学校中等部	平成 17 年	
東京農業大学第三高等学校附属中学校	平成 21 年	

4 設置する学校・学部・学科等の入学定員、学生生徒数

(平成28年5月1日現在)

(単位:人)

学校名等			入学定員(1)	入学者(2)	(2)÷(1)	編入定員(3)	編入学者(4)	(4)÷(3)	収容定員(5)	現員(6)	(6)÷(5)
大学院 農学研究科	博士前期課程	農学専攻	14	20	1.43				28	32	1.14
		畜産学専攻	12	11	0.92				24	18	0.75
		バイオセラピー学専攻	10	11	1.10				20	15	0.75
		バイオサイエンス専攻	30	33	1.10				60	80	1.33
		農芸化学専攻	25	26	1.04				50	53	1.06
		醸造学専攻	12	27	2.25				24	48	2.00
		食品栄養学専攻	12	6	0.50				24	19	0.79
		林学専攻	12	13	1.08				24	19	0.79
		農工学専攻	8	11	1.38				16	18	1.13
		造園学専攻	12	11	0.92				24	23	0.96
		国際農業開発学専攻	12	21	1.75				24	35	1.46
		農業経済学専攻	10	4	0.40				20	9	0.45
		国際バイオビジネス学専攻	12	13	1.08				24	26	1.08
	小計	181	207	1.14				362	395	1.09	
	博士後期課程	農学専攻	5	2	0.40				15	4	0.27
		畜産学専攻	4	1	0.25				12	4	0.33
		バイオセラピー学専攻	3						9	2	0.22
		バイオサイエンス専攻	6	3	0.50				18	9	0.50
		農芸化学専攻	5						15	2	0.13
		醸造学専攻	2						6		
食品栄養学専攻		2	2	1.00				6	4	0.67	
林学専攻		4						12	4	0.33	
農工学専攻		2	1	0.50				6	3	0.50	
造園学専攻		3	2	0.67				9	2	0.22	
国際農業開発学専攻		2	2	1.00				6	6	1.00	
農業経済学専攻		5	3	0.60				15	5	0.33	
国際バイオビジネス学専攻		5	1	0.20				15	5	0.33	
環境共生学専攻	5	3	0.60				15	9	0.60		
小計	53	20	0.38				159	59	0.37		
計	234	227	0.97				521	454	0.87		
大学院 生物産業学 研究科	博士前期課程	生物生産学専攻	7	4	0.57				14	10	0.71
		アクアバイオ学専攻	5	3	0.60				10	14	1.40
		食品香粧学専攻	5	7	1.40				10	10	1.00
		産業経営学専攻	3	6	2.00				6	9	1.50
	小計	20	20	1.00				40	43	1.08	
博士後期課程	生物産業学専攻	8	1	0.13				24	8	0.33	
計	28	21	0.75				64	51	0.80		
大学院計	262	248	0.95				585	505	0.86		
農学部	農学科	220	252	1.15	16	15	0.94	912	1,041	1.14	
	畜産学科	180	205	1.14	10	7	0.70	740	829	1.12	
	バイオセラピー学科	140	159	1.14	10	8	0.80	580	663	1.14	
	小計	540	616	1.14	36	30	0.83	2,232	2,533	1.13	
応用生物科学部	バイオサイエンス学科	140	156	1.11	10	9	0.90	580	667	1.15	
	生物応用化学科	140	156	1.11	10	10	1.00	580	659	1.14	
	醸造科学科	140	159	1.14	20	21	1.05	600	700	1.17	
	栄養科学科(食品栄養学専攻)							88	92	1.05	
	栄養科学科(管理栄養士専攻)							84	86	1.02	
	食品安全健康学科	140	164	1.17	10	10	1.00	430	487	1.13	
	栄養科学科	120	124	1.03	4	5	1.25	324	323	1.00	
小計	680	759	1.12	54	55	1.02	2,686	3,014	1.12		
地域環境科学部	森林総合科学科	140	160	1.14	6	7	1.17	572	661	1.16	
	生産環境工学科	140	151	1.08	3	3	1.00	566	657	1.16	
	造園科学科	140	160	1.14	20	22	1.10	600	691	1.15	
	小計	420	471	1.12	29	32	1.10	1,738	2,009	1.16	
国際食料情報学部	国際農業開発学科	140	163	1.16	10	10	1.00	580	669	1.15	
	食料環境経済学科	220	255	1.16	10	9	0.90	900	1,037	1.15	
	国際バイオビジネス学科	170	185	1.09	5	5	1.00	690	798	1.16	
	小計	530	603	1.14	25	24	0.96	2,170	2,504	1.15	
生物産業学部	生物生産学科	100	109	1.09	10	10	1.00	420	467	1.11	
	アクアバイオ学科	80	90	1.13		2		320	372	1.16	
	食品香粧学科	80	93	1.16	12	14	1.17	344	395	1.15	
	地域産業経営学科	90	104	1.16	5	11	2.20	370	422	1.14	
	小計	350	396	1.13	27	37	1.37	1,454	1,656	1.14	
学部計	2,520	2,845	1.13	171	178	1.04	10,280	11,716	1.14		
大学計	2,782	3,093	1.11	171	178	1.04	10,865	12,221	1.12		

学校法人 東京農業大学 2016

学校名等			入学 定員 (1)	入学 者 (2)	(2) ÷ (1)	編入 定員 (3)	編入 学者 (4)	(4) ÷ (3)	収容 定員 (5)	現員 (6)	(6) ÷ (5)
東京 情報 大学	大学院 総合情報学 研究科	博士前期課程	15	5	0.33				30	12	0.40
		博士後期課程	3	1	0.33				9	4	0.44
		計	18	6	0.33				39	16	0.41
	総合情報学部	総合情報学科	500	489	0.98	10	2	0.20	2,020	1,783	0.88
		情報システム学科								16	
		環境情報学科								10	
		情報ビジネス学科								5	
		情報文化学科								9	
	計	500	489	0.98	10	2	0.20	2,020	1,823	0.90	
	大学計	518	495	0.96	10	2	0.20	2,059	1,839	0.89	
東京農業大学短期大学部	生物生産技術学科	130	147	1.13				260	298	1.15	
	環境緑地学科	70	80	1.14				140	167	1.19	
	醸造学科	80	91	1.14				160	193	1.21	
	計	280	318	1.14				560	658	1.18	
東京農業大学第一高等学校	(全日制の課程)普通科	325	352	1.08				975	1,066	1.09	
東京農業大学第二高等学校	(全日制の課程)普通科	560	502	0.90				1,680	1,639	0.98	
東京農業大学第三高等学校	(全日制の課程)普通科	400	471	1.18				1,200	1,336	1.11	
東京農業大学第一高等学校中等部		175	196	1.12				525	562	1.07	
東京農業大学第三高等学校附属中学校		90	59	0.66				270	183	0.68	
学生生徒数 合計			5,130	5,489	1.07	181	180	0.99	18,134	19,504	1.08

5 設置する学校・学部・学科等の学年別学生生徒数

(平成28年5月1日現在)
(単位:人)

学校名等		博士前期課程			博士後期課程				計
		1年	2年	小計	1年	2年	3年	小計	
大学院 農学研究科	農学専攻	20	12	32	2	1	1	4	36
	畜産学専攻	11	7	18	1	1	2	4	22
	バイオセラピー学専攻	11	4	15		1	1	2	17
	バイオサイエンス専攻	33	47	80	3	1	5	9	89
	農芸化学専攻	26	27	53		1	1	2	55
	醸造学専攻	27	21	48					48
	食品栄養学専攻	6	13	19	2		2	4	23
	林学専攻	13	6	19		2	2	4	23
	農業工学専攻	11	7	18	1	2		3	21
	造園学専攻	11	12	23	2			2	25
	国際農業開発学専攻	21	14	35	2	1	3	6	41
	農業経済学専攻	4	5	9	3		2	5	14
	国際バイオビジネス学専攻	13	13	26	1	1	3	5	31
	環境共生学専攻				3		6	9	9
	小計	207	188	395	20	11	28	59	454
大学院 生物産業学 研究科	生物生産学専攻	4	6	10					10
	アクアバイオ学専攻	3	11	14					14
	食品香粧学専攻	7	3	10					10
	産業経営学専攻	6	3	9					9
	生物産業学専攻				2	1	5	8	8
	小計	20	23	43	2	1	5	8	51
	計	227	211	438	22	12	33	67	505
東京農業大学	学部名等		1年	2年	3年	4年	計		
	農学部	農学科	252	255	268	266	1,041		
		畜産学科	205	211	193	220	829		
		バイオセラピー学科	160	157	172	174	663		
		小計	617	623	633	660	2,533		
	応用生物 科学部	バイオサイエンス学科	156	160	176	175	667		
		生物応用化学科	160	160	171	168	659		
		醸造科学科	161	155	205	179	700		
		栄養科学科(食品栄養学専攻)				92	92		
		栄養科学科(管理栄養士専攻)				86	86		
		食品安全健康学科	165	160	162		487		
		栄養科学科	124	118	81		323		
	小計	766	753	795	700	3,014			
	地域環境 科学部	森林総合科学科	161	157	171	172	661		
		生産環境工学科	160	167	161	169	657		
		造園科学科	166	147	195	183	691		
		小計	487	471	527	524	2,009		
	国際食料 情報学部	国際農業開発学科	163	171	173	162	669		
		食料環境経済学科	256	252	268	261	1,037		
		国際バイオビジネス学科	186	191	200	221	798		
		小計	605	614	641	644	2,504		
生物産業 学部	生物生産学科	109	112	122	124	467			
	アクアバイオ学科	90	89	95	98	372			
	食品香粧学科	93	94	102	106	395			
	地域産業経営学科	104	105	108	102	419			
	産業経営学科				3	3			
	小計	396	400	427	433	1,656			
	計	2,871	2,861	3,023	2,961	11,716			

学校名等		博士前期課程			博士後期課程				計
		1年	2年	小計	1年	2年	3年	小計	
東京情報大学	大学院総合情報学研究科 総合情報学専攻	5	7	12	1	1	2	4	16
	学部名等		1年	2年	3年	4年	計		
	総合情報学部	総合情報学科	489	483	423	388	1,783		
		情報システム学科			1	15	16		
		環境情報学科			1	9	10		
		情報ビジネス学科		1	1	3	5		
		情報文化学科			1	8	9		
計		489	484	427	423	1,823			

学校名等		1年	2年	計
東京農業大学 短期大学部	生物生産技術学科	154	144	298
	環境緑地学科	81	86	167
	醸造学科	93	100	193
	計	328	330	658

学校名	1年	2年	3年	計
東京農業大学第一高等学校 (全日制の課程)普通科	353	368	345	1,066
東京農業大学第二高等学校 (全日制の課程)普通科	503	552	584	1,639
東京農業大学第三高等学校 (全日制の課程)普通科	471	442	423	1,336
計	1,327	1,362	1,352	4,041

学校名	1年	2年	3年	計
東京農業大学第一高等学校中等部	196	181	185	562
東京農業大学第三高等学校附属中学校	59	73	51	183
計	255	254	236	745

学生生徒数 合計	19,504
----------	--------

6 役員・教職員の概要

(1) 役員・評議員

(平成28年5月1日現在)

役員 (17名)		評議員 (50名)		
理事長	大澤 貫 寿	高野 克 己	手島 秀 樹	
常務理事	高野 克 己	鈴木 昌 治	原 朗	
理事	古谷 勇 治	夏秋 啓 子	松丸 禎 二	
	鈴木 昌 治	新部 昭 夫	渡邊 文 雄	
	村 清 司	渡部 俊 弘	阿曾 田 清	
	志和 地 弘 信	小 川 博	尾崎 義 人	
	渡部 俊 弘	上原 万 里 子	小野 甲 二	
	渡邊 文 雄	矢口 行 雄	小 泉 勉	
	尾崎 義 人	友田 清 彦	小 桧 山 善 継	
	菅原 哲 朗	黒 瀧 秀 久	佐 竹 弘 通	
	福島 哲 男	三 宅 修 平	佐 藤 四 郎	
	三好 吉 清	安 藤 達 彦	菅 原 哲 朗	
	鈴木 昭 憲	田 中 越 郎	高 野 三 郎	
	染 英 昭	村 清 司	高 橋 敬 明	
	監 事	會 田 勝 美	板 垣 啓 四 郎	鶴 丸 哲 司
		今 井 教 文	古 谷 勇 治	福 島 哲 男
		高 梨 雅 明	舟 山 亮	外 園 惘
		園 部 眞 己	柰 代 鉄 幸	
		三 好 吉 清	浅 見 紀 夫	
		池 内 隆 英	海 野 一 幸	
		石 川 浩 一	小 林 常 良	
	上 田 勉	田 沼 征 彦		
	金 子 忠 一	水 谷 洋 一		
	佐 藤 広 顕	西 太 一 郎		
	志 和 地 弘 信	萬 歳 章		

III 事業の概要

平成 28 年度事業の概要は、次のとおりです。

1 学校法人の取組み

(1) 学校法人東京農業大学中期事業計画と長期財政計画の策定

学校法人東京農業大学は、創立 125 周年（平成 28（2016）年）を契機に、創立 130 周年（平成 33（2021）年）に向けて、平成 27 年度に策定した将来構想「中期事業計画 N2018」に基づき、平成 28 年度の計画を実施しました。

これからの時代に必要な教育を見据えて、「生きる力」を育成する小学校を新設し、初等教育、中等教育、高等教育を総合した教育機関として学園化を図ることで、将来にわたり教育の充実・発展、健全な経営を永続させることを目指します。

同時に、「中期事業計画 N2018」の推進を財政的に裏付ける「長期財政計画 N2022」を策定しました。教育・研究を推進する N2018 の事業展開に必要な財源の確保のために、①採算性の確保、②更新財源の確保、③資金繰りの確保に係る財務指標「ガイドポスト」を定めて、経営理念である「学校法人全体の経営の安定化、財政の健全化なくして、これからの各教育機関の発展はあり得ない」を基本方針として、さらなる学校発展に取り組んでいきます。

(2) 東京農業大学稲花小学校の設置

東京農業大学を中核とした法人の学園化構想を具現化するため、小学校を開校し農大の持つ教育研究資源を生かした小中高大の一貫教育体制を構築します。平成 31 年 4 月に開校するため、「東京農業大学稲花小学校設置準備室」を設置し、平成 28 年 11 月 22 日に



東京都私立学校審議会において設置認可が承認され、11 月 24 日付けで学校設置計画承認通知を受領しました。校舎等は平成 30 年 4 月末竣工予定です。

(3) 東京農業大学 125 周年記念事業

① 記念式典・祝賀会

創立 125 周年記念式典を平成 28 年 5 月 21 日に、秋篠宮文仁親王殿下をはじめ、国内外から来賓を招いて、東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂にて開催しました。記念式典終了後には、同キャンパス桜丘アリーナにて祝賀会を開催し、全学応援團（リーダー部・チアリーダー部・吹奏楽部）による学生アトラクションを披露しました。また、当日は、第 16 回東京農大ホームカミングデーを同時開催し、親子三代表彰、農大物産即売会を実施しました。東京農大ホームカミングデーは、卒業生が卒業後もさらに絆を深め、農大ネットワークを拓けることを開催主旨としています。節目となる今年、卒業生と一緒に創立 125 周年を祝福するため、同時開催の企画となりました。

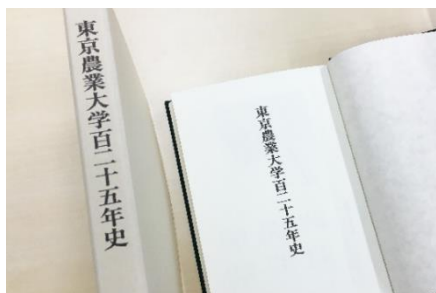


時間	イベント	会場
11:00-12:00	記念式典	百周年記念講堂
12:10-12:30	東京農大ホームカミングデー式典	百周年記念講堂
13:00-15:00	祝賀会	桜丘アリーナ
10:00-16:00	東京農大ホームカミングデー物産即売会	1号館付近

② 125周年史製作

■ <東京農業大学 125年史>

『東京農業大学 125年史』は、125周年を記念して平成 28 年 5 月に刊行しました。内容は先に刊行した『東京農業大学 110 年史』を基礎とし、平成 3 年 4 月より平成 28 年 3 月までの資料（大学院・学部・学科構成の推移、入学定員の推移、入学者数・在籍者数・卒業生数の推移、カリキュラム構成の推移、スポーツでの活躍など）を中心に編纂されています。東京農業大学ではこれまでに、50 年史、70 周年史、80 周年略史、90 周年略史、100 年史、110 年史を刊行し、今回の 125 年史で 7 刊目になります。



■ <東京農業大学 by AERA>

『東京農業大学 by AERA』は、朝日新聞出版より発行されている『AERA』と東京農業大学がコラボしたムック本です。掲載記事は、高野克己学長・ブラジル紀行「遠い異国の地を拓く 逞しき先駆者たち」、最新研究レポート「稲のことは稲にきけ」、農場実習・密着ドキュメント「富士で育つ農の心」、卒業生インタビュー「学祖の精神を継ぐ」、ちょっとマニアック！だからおもしろい「ぶらり研究室」、「東京農大今昔物語」など、見易い写真と読み易い記事で東京農業大学設立から現在に至る 125 年の歴史、充実した教育体制と研究内容、スポーツでの活躍、地域・社会への貢献活動、卒業生の活躍などを全



116 頁で紹介しています。なお、本誌は平成 28 年 3 月に発行されました。

③ 周年事業

■ <各団体が開催する年間記念イベント>

創立 125 周年を記念して、大学内の各団体等による様々なイベントが開催されました。

エクステンションセンター、図書館、「食と農」の博物館、総合研究所等の本学各部署の活動の他、農友会所属の学生団体が様々な活動を展開しました。

■ <周年記念学部シンポジウムの開催>

東京農業大学は、平成 29 年度に、1 学部 5 学科の新設と既設の学部学科の教育課程の改編により、大学全体の教育研究体制の再構築を計画しています。その前年にあたる平成 28 年度、既設の 5 学部が、それぞれの教育研究内容を学内外にアピールすることを目的に「周年記念学部シンポジウム」を開催しました。

■ <125 周年記念シンポジウムの開催>

創立 125 周年を記念して、本学創設者「榎本武揚」の人間像に迫るシンポジウムを開催しました。榎本家のご子孫、本学関係者をはじめ、多くの著名人から、人間・榎本武揚の魅力についての講演等がありました。また、作家の佐々木譲氏及び多摩大学大学院教授田坂広志氏による基調講演が行われました。

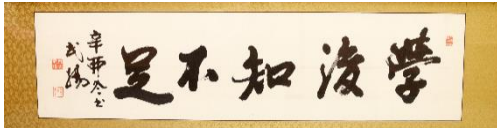
④ 奨学金「学びて後足らざるを知る奨学金」創設



東京農業大学の創設者榎本武揚公は、欧州で先端技術を学んだ科学者であり、開拓精神をもった国際人でした。榎本公は、徳川育英会育英奨開学の年、「礼記」から「学後知不足（学びて後足らざるを知る）」を書し、学ぶことの尊さを説きました。この榎本公の精神を受け継ぎ、本学の実学教育研究の担い手となる優秀な教員や研究者等の後継者を養成するため、在学中に奨学金を給付する制度を、本学創立 125 周年にあたり「書」に因んだ名称をもって制定したものです。この制度は日々研究に励み、榎本公の偉業に心を寄せ、本学の後継

者を志す博士後期課程大学院生に対し、入学金、授業料、整備拡充費の全額相当を減免するという画期的な奨学金です。

また、これを機に「従来の大学院奨学金制度」も改定し、ほぼ全ての大学院生が授業料の減免を受けられるようになりました。



学びて後足らざるを知る

⑤ 国際センター建設

「東京農業大学国際センター（仮称）」は農学分野における世界の拠点大学を目指す大学のシンボルとして、また世界の協定校及び校友の交流の場として、世田谷キャンパスに建設予定です。

国際センターには、国際会議対応の大小の会議ホール（円卓会議ホール・多目的ホール）の他、交流ラウンジ、国際資料室、レストラン、研究員室、校友会事務室など、学生及び教職員並びに国内外の校友が交流できる施設の整備を計画しています。国際資料室には本学の協定校、農大の海外活動史、校友会海外支部、学卒移住の歴史、国際協力への貢献などを展示する予定です。

建物コンセプトは「自然」「生物」「国際社会」「地域社会」との共生で、世田谷の緑に包まれて「教育」と「やすらぎ」が融合できる空間を創ります。教職員や卒業生及びビジターには、くつろげるカフェとしても利用いただけます。また、レストランと多目的ホールを備え、学会、懇親会、祝賀会、同窓会など多目的に使用可能です。国内外の多くの関係者がこの交流拠点を利用することによって、世界に開かれた東京農大を実感できるでしょう。



東京農業大学国際センター（仮称）外観イメージ

■ <記念事業募金>

○募金募集要項

創立 125 周年記念事業「東京農業大学国際センター（仮称）」建設のため、総事業費 14 億円のうちの一部を皆様に募金としてお願いしています。

【募金目標額】 7 億円

【募集期間】 平成 25 年 4 月 1 日～
平成 30 年 3 月 31 日

【募金方法】 銀行振込・クレジットカード・ネットバンキング

詳細は、ホームページ（<http://bokin.nodai.ac.jp/>）で紹介しています。

○募金状況 平成 29 年 3 月末現在

個人 / 4,247 件 法人・団体 / 369 件
合計 / 4,616 件

○寄付者特典

【個人の方】

	寄付額 10万円未満	10万円～	100万円～
記念グッズ(メモ帳など)	0	0	0
銘板作成	—	0	0
THE NEWS TOKYO NODAIの発送	—	0	0
ホームカミングデー案内状の発送	—	0	0
懇親会招待(カミングデー・表彰)	—	—	0



記念グッズ

【企業・法人の方】

100 万円以上の寄付者には、銘板にご芳名を刻まさせていただきます。

125周年関連イベント

5月21日(土)	創立125周年記念式典 第16回東京農大ホームカミングデー	世田谷キャンパス 百周年記念講堂、他
8月6日(土)	農学部周年記念シンポジウム	厚木キャンパス(トリニティーホール)
8月7日(日)	地域環境科学部周年記念シンポジウム 国際食料情報学部周年記念シンポジウム	世田谷キャンパス 横井講堂 世田谷キャンパス 13号館1階合同演習室
9月17日(土)	125周年記念シンポジウム 「食と農」の将来	世田谷キャンパス 横井講堂
10月2日(日)	125周年記念シンポジウム 「本学創設者 榎本武揚を再評価する」	日本経済新聞社ホール 千代田区大手町1-3-7 日経ビル
10月9日(日)	応用生物科学部周年記念シンポジウム	世田谷キャンパス 横井講堂
10月22日(土)～23日(日)	生物産業学部周年記念シンポジウム	オホーツクキャンパス

2 教育の推進

(1) 東京農業大学・同短期大学部

① 東京農業大学と同短期大学部の改革

■ <学部改組による学部学科の新設と定員の適正化>

○本学の教育研究の社会的ニーズ及び貢献領域の変化並びに拡大に対応するため、短大定員を農大に取り込みました。また、教育研究の更なる質的向上と充実を促進するため、建学の精神「人物を畑に還す」と教育研究の理念「実学主義」に基づき、世界水準の先端研究と生命を大切にす「農のこころ」を育む教育を推進し、未来の問題を解決できる人材をグローバル社会に輩出することを目的として新学部 生命科学部(バイオサイエンス学科・分子生命化学科・分子微生物学科)、新学科 地域創成科学科、国際食農科学科を平成 29 年度 4 月に開設します。

② 建学の精神、教育研究の理念の浸透

■ <教育の質的転換の促進>

○東京農業大学・同短期大学部は、建学の精神「人物を畑に還す」と教育・研究の理念「実学主義」に基づき、本学の学びを通して「生きる力」を育み、「農のこころ」をもって社会の発展に寄与する人材を輩出することを使命としています。そのため、「教育研究上の目的」、「教育目標」と共に、「3つの方針」①入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)、②教育課程編成方針(カリキュラムポリシー)③学位授与方針(ディプロマポリシー)を学部、学科ごとに定め、ホームページに公開しました。

③ 大学院教育の充実

■ <教育力・人間力向上>

○大学院生の教育力・人間力向上を図るため全学組織の専門委員会「大学院 FD 向上委員会」に4つのワーキンググループ(WG)『入試制度 WG』『教育連携 WG』『TA 教育 WG』『広報活動 WG』を設置し、検討を進めています。

④ 入学志願者の確保

■ <入試制度の検証>

○全学組織の入試戦略委員会において、過去最大の志願者を確保した平成 29 年度の入試結果を検証しています。更に新たに導入した学部志望型入試等(全学部の全学科が併願可能な「一般入試 全学部統一型」と、1 学部のみ出願とし、同一学部内の学科のみ併願可能な「一般入試 学部志望型」を実施)について受験者高校と実志願者の面から検証を行い、平成 30 年度入試制度の検討を進めています。

■ <ブランド力強化>

○大学の発信力強化を進めるため、平成 28 年 12 月にホームページをリニューアルしました。
○平成 29 年度入試における新学部・新学科の積極的な広報を行うと共に、ADトレイン広告など東京農大のブランド力向上に努めました。



ADトレイン広告掲出

⑤ グローバル人材の育成及び確保

○平成 27 年度に文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に本学の取組み「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業」が採択され、平成 28 年度は5カ年計画2年目の「食農及び環境分野の実践的な専門家育成計画」を実施しました。

- 英語力を高める TOEIC 講座と国際インターンシップを連携したプログラムを実施しました。



国際インターンシップ

■ <留学生受け入れ促進と学位取得教育の充実>

- 国際食料情報学部のみであった特別留学生の受け入れを全学部拡大することにより、多様な留学生が入学できるようになりました。

■ <海外大学及び国際機関との協力協定の促進>

- 海外大学、国際機関との協力協定を促進しています。平成 28 年度に締結した海外大学及び国際機関は次のとおりです。
 - ・タマサート大学（タイ王国）
 - ・江原大学（大韓民国）



タマサート大学との調印式

Somkit Lertpaithoon 総長（左）、本学高野学長（右）

■ <海外拠点事務所の開設>

- 「海外事務所の設置に関する要領」を制定し、平成 28 年 3 月タイ王国タマサート大学内に東京農業大学海外事務所を設置しました。



タイ王国海外事務所

⑥ 研究成果の社会貢献展開

■ <企業・他機関との連携>

- 大学院生の海外発表機会促進のための「大学院生海外研究発表支援プロジェクト」を立ち上げました。また、従前の「大学院高度化及び研究プロジェクト」を見直して、公募型の「大学院先導的実学研究プロジェクト」を実施しています。
- 平成 28 年度に研究戦略委員会を 7 回開催し、研究プロジェクトの検討協議を行い、次年度に向けた「学部長主導型プロジェクト」計画を立案しました。
- 企業・他機関との連携を強化し、研究成果の社会貢献展開を促進するため、平成 28 年度には、次の企業等と連携協定を締結しました。現在 27 企業・他機関と連携しています。
 - ・株式会社フリーデン
 - ・東洋ライス株式会社
 - ・ヤマザキビスケット株式会社
 - ・株式会社三井住友銀行
 - ・信州うえだ農業協同組合
- 本学の研究力と外部ニーズの連携による大学戦略研究の推進のため、「自己点検システム（教員の研究業績の発信）」をリニューアルしました。

⑦ 学生支援・学生の満足度向上

■ <心と体の健康に係る管理体制の充実>

- 世田谷、厚木、オホーツク 3 キャンパスにおいてハラスメントとメンタルヘルスの講習会を実施し、意識向上を図りました。
- 障がい学生修学支援規程を制定 (H28. 8. 1) し、身体的、心的ケアの対応を強化しました。
- 厚木キャンパスにおいて、ハラスメントアンケートを実施し、防止に努めました。また、厚木学生会館を中心とした学生コミュニティが形成され、学生満足度を向上しています。
- オホーツクキャンパスでは、新入生を対象とした「一人暮らしする学生のためのセミナー」を実施し、1年目の学生生活のサポートを行いました。
- 教員による研究室を通じての学生教育を徹底し、退学・留年の防止やキャリア支援に努めました。

⑧ 地域（地元）連携

■ <地域に愛される大学としての地元地域との連携>

- 世田谷キャンパスでは、世田谷区と区内大学との連携事業を推進しています。また、平成 28 年には世田谷区、近隣町会との防災に関する協定締結の合意に至っています。近隣商店街や町内会との積極的な交流を行っており、その一環として地域の防災訓練に参加しました。
- 厚木キャンパスでは、学生会館（農舞台）が地域住民との交流の場となるよう計画を進めています。
- オホーツクキャンパスでは、地域住民参加型の体育祭・収穫祭の企画立案、網走マラソンボランティアへの継続的参加等を積極的に行っています。また、平成 28 年度収穫祭においては、オホーツクマルシェを同時開催し、多くの市民が来場しました。



網走マラソンのボランティア

(2) 東京情報大学

① 看護学部看護学科の新設

■ <看護学部看護学科の新設に伴う整備>

- 平成 29 年 4 月の看護学部看護学科の新設に向け、看護実習棟が平成 29 年 1 月に竣工しました。教員研究室は既存 7 号館を改修し、個人研究室 (25 室) を設置しています。また、看護学部遠隔看護実践研究センター規程を制定し、情報通信技術を活用した新たな医療及び看護学分野における実践技術の研究・開発を産官学の連携を通して行います。

② 学士課程教育の充実と学位の質保証

■ <学位授与方針と教育課程編成方針の検証>

- 総合情報学部は、平成 28 年 12 月に教職課程の設置（「情報」及び「数学」）について文部科学省から認可されました。



情報教育（演習授業）の様子

- 看護学部では文部科学省の設置認可後、看護学部設置準備委員会が策定した学位授与方針、教育課程編成方針及び入学者受入れ方針に基づき、広報、オープンキャンパス、入試説明会、入学者説明会、合格者説明会を実施しました。これにより本学の教育方針、教育課程編成方針、教育方法に理解ある学生を確



看護実習の様子（イメージ）

保することができました。平成 29 年度以降、看護学と情報学とを融合した教育により、地域ケア・医療を支える看護師・保健師の育成を行うとともに、遠隔看護をはじめとした実践的研究を進めながら、学位授与方針と教育課程編成方針を検証します。



看護実習棟エントランス

③ グローバル人材の確保

■ <研究成果の国際学会を含む対外発表の推進>

○ ABE イニシアティブによるアフリカからの留学生は、南アフリカにおける国際学会及び韓国における国際学会において、研究成果を発表しました。平成 29 年度にも、米国における国際学会での研究成果の発表を予定しています。

■ <外部資金獲得による国際共同研究等の推進>

○ 米国海軍研究所からの受託研究を実施し、先方研究者との交流を図るとともに、対外発表を実施しました。

④ 学生支援・学生の満足度向上

■ <2 学部体制の学生奨学費等支援>

○ 総合情報学部改組と看護学部開設（平成 29 年度）に際し、人物、学業成績が優秀な学生の確保を目的に、時限的（平成 32 年度まで）措置として新入生の特待生を 2 学部合計で 15 名増とする細則等（特待生細則及び特待生細則運用内規）の改正を行いました。

⑤ 研究成果等の社会貢献展開

■ <地域連携>

○ 平成 27 年度に引き続き、千葉市、四街道市、香取市及び佐倉市の研究プロジェクトに資金を配分し、地域連携の重点化を推進しました。

(3) 東京農業大学第一高等学校・同中等部

① 教育改革及び教育研究の推進・検討

■ <ICT 教育の導入>

○ ICT 教育の年次導入計画を立て、平成 28 年度は計画の初年度と位置付け、移動式電子黒板 2 台とタブレット端末 18 台を導入し運用を開始しました。



電子黒板による授業



P C 教室での授業

■ <教員の授業力向上に向けた施策の検討と実施>

○ 授業の研鑽を行う取組みとして、相互授業参観を実施しました。
○ 教科主体での研修、非常勤講師の研修会を実施しました。
○ 各教員が外部研修会に参加する計画を立て実施しました。
○ アクティブラーニングの導入により授業研鑽を行いました。

② グローバル教育の展開

■ <国際的に活躍する人材の養成>

○ 中等部でオーストラリア・ケアンズ（2 週間）、高校でオーストラリア・ブリスベン（18 日間）の海外研修を実施しました。海外研修の事前学習としてネイティブによる会話指導を行いました。

- 語学研修プログラムとして、中等部 2 年生を対象に福島県にある「ブリティッシュヒルズ」での研修（3 日間）を実施しました。また、訪日研修生の体験入学受け入れ（ホストファミリーとしての受け入れ）を実施しました。



海外研修（オーストラリア）

③ キャリア教育の充実

- 高校 1 年生を対象に進路・職業適性検査を実施しました。
- キャリア授業として、保護者を中心とした講師による職業についての講演を行いました。
- 将来設計や職業についての見識を深めるため、リクルート社によるキャリア講演を実施しました。



キャリア教育プログラムの様子

④ 生徒支援・生徒の満足度向上

■ <進路指導の充実と強化>

- 受験対策委員会では、生徒の知的好奇心・発想力・思考力等を高めるため、東大駒場リサーチキャンパスの見学、特別ゼミ、医学部入試ガイダンス等各種イベントを行い、東大合格者や医学部合格者を輩出しました。
- 高校 3 年生を対象に論文対策委員会による論文指導を行いました。
- 卒業生による講演等を通じて、現役生の受験に対する意識を高めるため、受験体験報告会で卒業生を囲む会を実施しました。
- 全教員を対象に大学入試の現状と新制度入試への理解を深めることを目的として、教員研修会を 8 月に実施しました。

■ <心と体の健康に係る管理体制の充実>

- 男女 2 名のカウンセラー（臨床心理士）が毎日午後カウンセリング室に常駐して日々の生徒へのメンタルケア及び保護者との面談を実施しています。また、カウンセラーと担任とが情報交換を行うことによってクラス運営に役立てています。なお、平成 28 年 4 月に、本校カウンセラーによる教職員対象の「発達障害」についての講習会を開催しました。

⑤ 社会貢献

■ <地域社会への融和と協調>

- 世田谷区青少年上町地区委員会の活動に学生が参加しました。
- 経堂農大通り商店街振興組合主催「経堂まつり」へ吹奏楽部及びチアリーディング部員が参加しました。
- 世田谷区青少年上町地区主催「子ども大会」に学生ボランティアとして参加しました。
- 東京私立中高協会第 8 支部の生徒委員として学生が各種清掃活動などに参加しました。

(4) 東京農業大学第二高等学校

① 授業力と進学実績の向上

○授業力と進学実績の向上のため以下のことに取り組みました。

- ・『習熟度別クラス編成の実施』
- ・『進学プロジェクトの実施』
- ・『理科(化学、生物、物理)の実験授業を実施』
- ・『外部アドバイザーによる教科指導の実施』
- ・『大学入試対策委員会のスタート』
- ・『大学入試研究を5教科で実施』
- ・『群馬大学入試解答速報作成準備を開始』
- ・『3年生の3学期に大学入試対策講座の実施』
- ・『生徒による授業評価の実施』

② グローバル教育の展開

○外国人学生との交流プログラム、中国人学生の訪問を受け入れ、海外研修旅行(シンガポール)を実施しました。

③ キャリア教育の展開

○職場見学(群馬県庁、外務省、前橋地方裁判所など)を実施しました。

○社会人講演会(東進ハイスクール講師)を開催しました。



社会人講演会

④ 生徒支援・生徒の満足度向上

■<奨学金制度の導入>

○学業奨学生制度、運動選手特待生制度を実施しました。また、同窓会奨学生制度を新たにスタートしました。

■<補習授業等の充実>

○主要教科の補習(放課後・長期休業中)を実施しました。

⑤ 地域社会貢献活動

■<ボランティア活動の推奨>

○小学校へのボランティアチューターの派遣や吹奏楽部の小中学校での訪問演奏等を実施しました。



ボランティア体験学習

■<生活指導の徹底>

○全生徒を対象に警察署員による交通講話や非行防止教室などを実施し、良識ある生活態度の育成に取り組みました。

(5) 東京農業大学第三高等学校・同附属中学校

① 教育課程の改組等

■ <コース制の実施>

○平成 28 年度から、進学実績を伸ばし、スポーツを強化するために、コースを新たに編成しました。Ⅰコース(進学重視)、Ⅱコース(文武両道)、Ⅲコース(スポーツ科学)とし、これに中高一貫を加えた4コース制となりました。

■ <生徒の進路目標実現への指導・支援の実施>

○高校 3 年生を対象に進路目標の実現のため、国立大や私立難関校に入学した卒業生を招き合格体験談を聞き、その学習プロセスを知る機会を設けました。

■ <教科教育力の強化>

○教員の教育力向上のために、FDの実施、校外における研修会への参加、研究授業の実施、生徒による授業アンケートの実施などを組み合わせることにより、教員の教育スキルの向上を図りました。

② グローバル教育の展開

■ <国際社会に通用する人材育成>

○中学校では、グローバル教育の一環として、『グローバル・イングリッシュ・キャンプ』の実施やニュージーランドでのホームステイを実施しました。

○高校では、オーストラリアへの修学旅行にてホームステイを実施するなど、グローバル教育を展開しました。



ホームステイ (ニュージーランド)

③ キャリア教育の充実

■ <将来を見据えたキャリア設計指導>

○高校 1 年生を対象にキャリア教育プログラム「CAS (Career Axis Support)」を導入し、生徒によるキャリアデザインを実施し、キャリア実現を目指すための取り組みを行いました。

○各分野で活躍する社会人を招き、講演会を実施しました。

○職業体験、職場訪問を実施しました。



職業体験

④ 社会貢献の推進と地域との綿密な連携

■ <地域の各種イベントへの参加>

○東松山市が主催するイベント活動(スリーデーマーチなど)に教員・生徒で参加し地域との融和を図りました。

○公開市民講座(前後期)、文化講演会(年 2 回)を開催し、保護者や地域住民の参加がありました。

⑤ 支援団体との連携強化

■ <学校運営のための支援・助力の確保>

○保護者会・後援会・同窓会などの支援団体との協調を深め、学校の発展と生徒の学力・生活指導向上に寄与する活動への助力を得ました。

3 研究の推進

(1) 東京農業大学

採択・事業分野	テーマ	大学・学部・所属	事業推進責任者 研究代表者	新規 継続	
学内事業	先端研究プロジェクト	消化管幹細胞を用いた新規培養系の確立と消化管機能解析	東京農業大学応用生物科学部 食品安全健康学科	准教授 岩槻 健	継続
	大学戦略研究プロジェクト	ウシ妊娠成立制御機構の破綻に繋がる因子の探索とその分子メカニズムの解明	東京農業大学農学部 畜産学科	助教 白砂 孔明	継続
		安全・健康・おいしさに貢献する乳酸菌の多様性とその活用	東京農業大学応用生物科学部 菌株保存室	教授 田中 尚人	継続
		モミガラ無殺菌法による低コストきのこ栽培法の開発および高機能性きのこの六次化	東京農業大学地域環境科学部 森林総合科学科	教授 江口 文陽	継続
		ジブチにおける広域水循環系の把握と緑化ポテンシャル評価に関する研究	東京農業大学地域環境科学部 生産環境工学科	教授 島田 沢彦	継続
		東京農大宮古亜熱帯農場の熱帯性植物のジーンバンク化構想-有用植物遺伝資源の保存と利用の開発-	東京農業大学国際食料情報学部 宮古亜熱帯農場	准教授 菊野 日出彦	継続
		北海道自生の塩生植物アクセシソウの保全とその耐塩性遺伝子の利用	東京農業大学生産学部 生物生産学科	准教授 坂本 光	継続
		乳酸菌の長寿遺伝子サーチチェーンの構造と機能	東京農業大学生産学部 食品香粧学科	教授 中川 純一	継続
		東京農大厚木キャンパス発のブランド作物の構築～高品質ベビーノでキャンパス興し～	東京農業大学農学部 農学科	助教 高畑 健	新規
		伝統的農地管理による生物多様性ならびに国土保全の評価と持続的地域防災マネジメントの構築	東京農業大学地域環境科学部 教養分野	教授 本田 尚正	新規
		先端技術を活用した新規動物資源エミューの迅速な家畜化と高能力化	東京農業大学生物産業学部 生物生産学科	准教授 和田 健太	新規
	東日本支援プロジェクト	津波・放射能汚染からの農地・森林・営農の迅速・効率的な復興方法の解明	東京農業大学国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科	教授 渋谷 往男	継続
	ハラル研究プロジェクト	農大におけるハラル食品に関する研究基盤の構築	東京農業大学 総合研究所	教授 久保田 紀久枝	継続
	大学院先導的実学研究プロジェクト	茶草場農法における生産性向上と環境負荷低減を両立した精密農業手法の構築	東京農業大学大学院農学研究科 農業工学専攻	准教授 藤川 智紀	新規
		安価なシステムによるビニールハウス内環境測定手法の確立と作物生産の環境要因分析	東京農業大学大学院農学研究科 国際バイオビジネス学専攻	教授 畑中 勝守	新規
香料化合物等の合成に用いる水産廃棄物を原料とする触媒製造法の開発		東京農業大学大学院生物産業学研究科 食品香粧学専攻	教授 戸枝 一喜	新規	
農大ブランドによる地方創生を目指した6次産業化プロジェクト		東京農業大学大学院農学研究科 農業環境経済学専攻	教授 堀田 和彦	新規	
文部科学省	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	生命科学と情報科学の融合による農学研究の拠点形成	東京農業大学 生物資源ゲノム解析センター	センター長 矢嶋 俊介	継続
	特色ある共同研究拠点の整備の推進事業	生物資源ゲノム解析拠点 (共同利用・共同研究拠点に認定)	東京農業大学 生物資源ゲノム解析センター	センター長 矢嶋 俊介	継続
厚生労働省 (AMED)	創薬基盤推進研究事業	能登半島における国産麻黄生産拠点の構築	東京農業大学農学部 バイオセラピー学科	教授 御影 雅幸	継続

(2) 東京情報大学

採択・事業分野		テーマ	大学・学部・所属	事業推進責任者 研究代表者	継続 新規
学内事業	プロジェクト研究 (連携自治体関連)	千葉市下田都市農業交流センター（下田農業ふれあい館）を活用した地域活性化に関する研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 柳田純子	継続
		千葉市シティセールスビデオ作成を通じた地域振興並びに映像技法、教育効果の研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 伊藤 敏朗	継続
		子供向けのアントレプレナーシップ教育講座の開催を通じた起業家育成コンテンツ・プログラム開発の研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 樋口 大輔	継続
		Web・SNSを活用した地域振興に関する研究～地域と情報大のヒト・モノ・コトを記憶するWebサイト「ちば Active!」の開発・運用～	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	助教 河野 義広	継続
		千葉市立稲毛高校との高大連携に関わる研究事業	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	嘱託教授 鈴木理枝	新規
		地域の食材を活用した商品開発を通じたマネジメントの総合研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 池田 幸代	継続
		地域資源の発見のための基礎調査及び市民啓発に関する研究～千葉市連携事業～	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 富田 瑞樹	継続
		FinTech産業の発展と誘致を目指した特区申請に関する可能性調査～千葉市連携事業～	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 堂下 浩	継続
		千葉市・四街道市における離婚別居家庭子供の心理社会特性に関する実態調査	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 山口 豊	新規
		「学校ボランティア」のニーズに関する基礎調査～千葉市連携事業～	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 原田恵理子	新規
		若葉区地域のクラスリングに関する研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 内田 治	継続
		香取市佐原の小野川周辺での3次元データ化によるバーチャルリアリティ技術の研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 井関 文一	継続
		佐原地区の産業遺産の発掘とPRビデオ作成を通じた地域振興に関する研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 堂下 浩	継続
	佐倉市における地域資源の発掘とARを活用したPR手法の研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 原 慶太郎	新規	
プロジェクト研究 (重点研究)	次世代ICT技術のコア技術についての調査（ディープラーニング、IoT、エッジコンピューティングを中心として）	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 永井 保夫	継続	
環境省	環境総合推進費	衛星リモートセンシングによる広域スケール生物多様性モニタリング及び予測手法の開発	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 原 慶太郎	継続
日立システムズ		セキュリティインシデント解析基盤システム等に関する研究開発	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 布広 永示	継続

4 国際連携の推進

(1) 東京農業大学・同短期大学部

我が国を代表する農学系・生物系の総合大学として、世界の平和と人類の繁栄に資するため、食料・環境・健康・バイオマスエネルギーの分野での諸問題の解決に向けた国際的な教育研究・協力活動を実施しています。海外提携大学・研究機関との連携によって実学的な国際教育プログラムや国際協力を企画運営し、教育研究水準の高度化を図るとともに、蓄積された経験と教育研究成果の社会還元に取り組んでいます。

特に、本学は世界トップレベルの農学および生命科学系大学との連携を強化しています。海外の大学と交流協定を締結し、主な学生交流プログラムとして、長期と短期の留学・農業研修・語学プログラム(本学学生派遣)、短期プログラムと長期 visiting student (協定校学生受入) 及び世界学生サミットを実施しています。

また、本学は独立行政法人 国際協力機構 (JICA) が行う開発途上国への国際協力事業のうち、青年海外協力隊 (本学卒業生派遣者 1, 0 0 0 名以上)、開発途上国技術協力研修員受入、日系人支援事業の支援・連携を行っています。

① 海外協定校 (26カ国・地域、35大学等高等教育機関)

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1) アメリカ・ミシガン州立大学(1966年締結) | 18) フランス・アンジェ農業高等学院(2001年締結) |
| 2) タイ・カセサート大学(1988年締結) | 19) フランス・ロヌ・アルプス農業栄養高等学院(2004年締結) |
| 3) カナダ・ブリティッシュコロンビア大学 (1988年締結) | 20) フランス・ブルバン技術学院(2004年締結) |
| 4) 中国・中国農業大学(1988年締結) | 21) オランダ・ワーヘニンゲン大学(2004年締結) |
| 5) 台湾・国立中興大学(1992年締結) | 22) フランス・ボヘ・ラサル・ポリテクニク学院(2007年締結) |
| 6) インドネシア・ボゴール農科大学(1996年締結) | 23) タンザニア・ソコネ農業大学 (2009年締結) |
| 7) モンゴル・モンゴル国立農業大学(1996年締結) | 24) カンボジア・王立農業大学 (2011年締結) |
| 8) ベルギー・ラモリーナ国立農業大学(1996年締結) | 25) ブラジル・アマゾン農業大学 (2013年締結) |
| 9) フィリピン・フィリピン大学ロスバニオス校(1996年締結) | 26) 英国・レディング大学 (2013年締結) |
| 10) 韓国・国立慶北大学(1998年締結) | 27) ジブチ・ジブチ大学 (2013年締結) |
| 11) イスラエル・ヘブライ大学(1998年締結) | 28) ラオス・ラオス国立大学 (2014年締結) |
| 12) ベトナム・ハノイ農業大学(1998年締結) | 29) アメリカ・コーネル大学(2014年締結) |
| 13) ブラジル・サンパウロ大学(2001年締結) | 30) スリランカ・ペラデニア大学(2014年締結) |
| 14) メキシコ・チャピング自治大学(2001年締結) | 31) ミャンマー・イエジン農科大学(2014年締結) |
| 15) ウクライナ・ウクライナ国立農業大学(2003年締結) | 32) 中華人民共和国・上海交通大学(2015年締結) |
| 16) マレーシア・マレーシアプトラ大学(2004年締結) | 33) オーストラリア・西オーストラリア大学(2015年締結) |
| 17) フランス・リール農業高等学院(2004年締結) | 34) タイ・タマサート大学 (2016年締結) |
| | 35) 韓国・江原大学 (2016年締結) |

交流プログラム派遣・受入人数一覧

(単位:人)

機関名(国名)	派遣		受入	
	短期	長期	短期	長期
ミシガン州立大学(アメリカ)	9	3	—	—
コーネル大学(アメリカ)	—	—	—	1
カセサート大学(タイ)	14	—	15	—
中国農業大学(中国)	10	—	14	—
国立中興大学(台湾)	12	—	14	4
ソコネ農業大学(タンザニア)	6	1	—	—
ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)	13	1	—	1
フィリピン大学ロスバニオス校(フィリピン)	6	2	—	—
マレーシアプトラ大学(マレーシア)	—	3	—	1
ワーヘニンゲン大学(オランダ)	—	—	—	1
ロヌ・アルプス農業栄養高等学院(フランス)	—	—	—	1
リール農業高等学院(フランス)	—	—	—	1
ブルバン技術学院(フランス)	—	—	—	1
西オーストラリア大学(オーストラリア)	12	1	—	—
合計	82	11	43	11

② 第16回世界学生サミット



International Students Summit (ISS)
世界学生サミット

<http://www.nodai.ac.jp/cip/index.html>

世界の食料・環境問題を考え、人類の持続的発展と青年自らの役割について話し合うために、毎年、海外協定校、外国人留学生および日本人学生が一堂に会して、「新世紀の食と農と環境を考える世界学生サミット」を開催しています。

平成28年度は、125周年記念事業として、9月29日・30日に東京農業大学世田谷キャンパスで開催しました。協定校26大学37名及び本学からの代表学生が研究を発表し、議論を展開しました。2日間の延べ聴講者数は、約3,000名に達しました。

③ 大学の世界展開力強化事業



<http://tenkai.nodai.ac.jp/ja/index.html>

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に本学の取組み「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業」が平成27年9月に採択されました。5年間継続し、本学と中南米協定校4校との学生交換留学プログラムを実施しています。

平成28年度は短期(約2~3週間)プログラムで派遣13名、受入4名、長期プログラム(3ヵ月~1年)で派遣5名、受入5名の学生交流を行いました。このプログラムの特徴は、(1)専門科目履修・聴講、(2)現地語学体得、(3)学生交流、(4)農学系インターンシップ実施、(5)農学系施設視察を行うことにあります。特に、(4)インターンシップは本学校友会海外支部及び校友の全面的な支援を受けて実施しました。

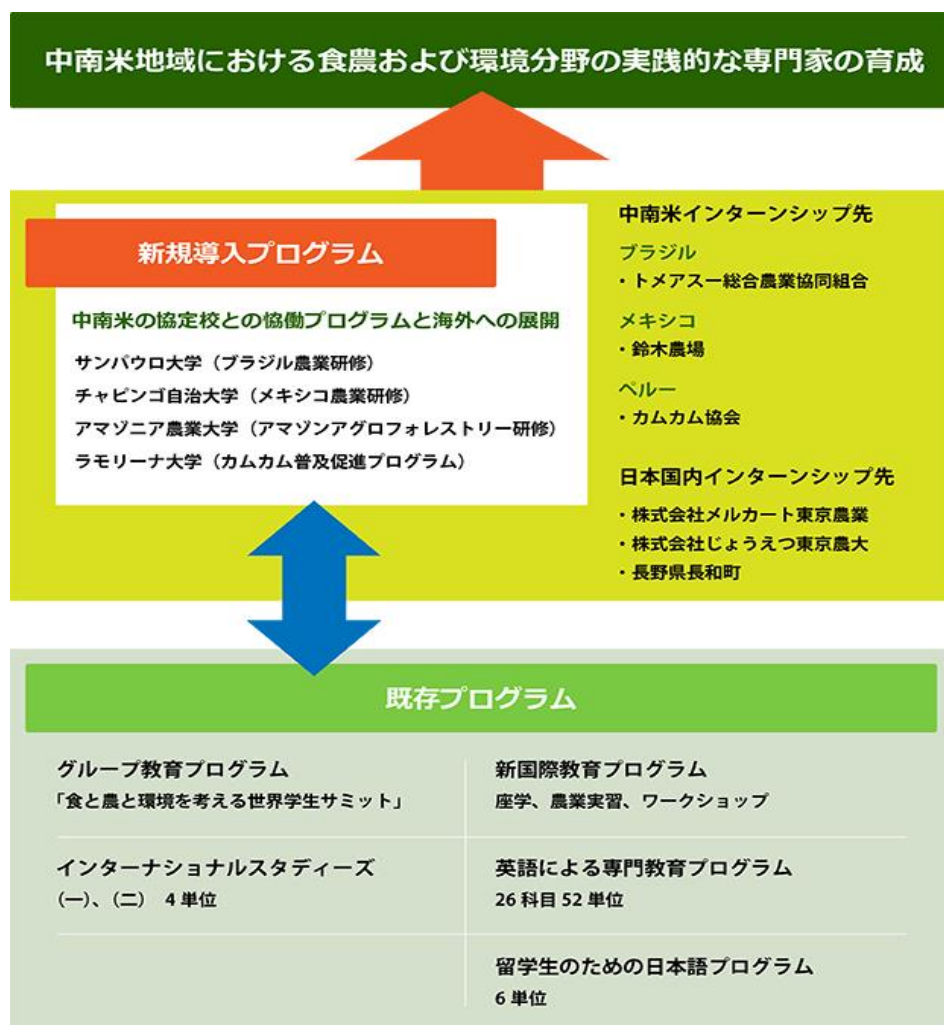
交流プログラム派遣・受入人数一覧【世界展開力強化事業】

(単位:人)

機関名(国名)	派遣		受入	
	短期	長期	短期	長期
アマゾン農業大学(ブラジル)	3	—	1	2
サンパウロ大学(ブラジル)	—	2	1	—
チャビンゴ自治大学(メキシコ)	6	2	1	2
ラモリーナ国立農業大学(ペルー)	4	1	1	1
合計	13	5	4	5

■事業概要

「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業」は、東京農業大学と中南米の農学系大学との連携を強化しながら、既に行っている交換プログラムに農学系インターンシップを加えて総合的実学教育プログラムを実施し、中南米地域で活躍できる開拓(開発)型グローバル人材を育成し、持続的な食糧生産をめざす日系企業への就職並びに農林水産業における起業家の実業を支援するものです。



■交流プログラムの概要と特徴

東京農業大学から中南米協定校への派遣は、本学から中南米協定校 4 大学及び農学系インターンシップ受入企業や団体への長期派遣(8・9 月から 6 カ月～1 年)と短期派遣(8・9 月に 2～3 週間)を実施します。

中南米協定校から東京農業大学への受入は、中南米協定校 4 大学から本学における長期受入(6 カ月～1 年)と短期受入 9 月、10 月に 2～3 週間)及び農学系インターンシップ(有機農業、食品加工、商品開発と販売の会社や団体等)を実施します。

プログラムの特徴は、海外大学における学びと農学系インターンシップを組み合わせたプログラムです。短期、長期ともに、次の要素を取り入れています。1) 協定校における専門科目受講、2) 現地語(派遣はスペイン語、ポルトガル語、受入は日本語)研修、3) 現地学生との交流、4) 農学系インターンシップ、5) 農学関連施設見学

④ JICA 開発途上国技術協力研修員・日系研修員受入事業

1) JICA 開発途上国技術協力研修員受入事業

本学大学院は、開発途上国諸国の行政官、技術者、研究者を大学院生として受入れています。

専門知識と技術を体得した研修員大学院生は、母国において課題解決に役立つ有益な人材として活躍しています。

- | | |
|--|-----------|
| ・ アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材育成 (PEACE) プロジェクト | 在籍学生数 16名 |
| ・ アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABE イニシアティブ) | 18名 |
| ・ エチオピア国立イネ研究研修センター強化プロジェクト | 2名 |
| ・ ミャンマー国農業セクター中核人材育成事業 | 1名 |

2) 日系研修員受入事業

中南米地域の日系人への技術協力支援として、本学教員が日系研修員を受入れ、母国の国づくりに貢献する人材育成を支援しています。受入研修員数2名 (ボリビア、ブラジル)。

(2) 東京情報大学

ABE イニシアティブ (第二バッチ) による留学生の受け入れ

大学院総合情報学研究科では、JICA「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABE イニシアティブ)」およびインターンシッププログラムによる留学生 (ナミビア共和国、ガボン共和国、タンザニア連合共和国) 3名を受け入れています。プログラム2年目の平成 28 年度においては大学院博士前期課程1年次生として本格的な大学院授業科目によるコースワーク及び指導教授等によるリモートセンシング、情報通信などのそれぞれの研究テーマによるリサーチワークを行いました。

■ 研究テーマ一覧

- ① リモートセンシング、GIS、及びニューラルネットワークを利用した土地利用、土地被覆変化の予測について
～タンザニア、ダー・エス・サーラムのケーススタディ～
- ② リモートセンシングを利用したニューラルネットワークによるガボン、モンダールの森林地域における気候変動の影響予測 について
- ③ 露出したノード制限状態における非同期の RTS/CTS について

5 教育研究施設設備等の整備（主要事業）

■東京農業大学・同短期大学部世田谷キャンパス

- 新研究棟建設事業
建設計画に係る調査・コンサルタント業務
- 世田谷キャンパス学部改組
研究室改修
9号館1階～4階、10号館1階、11号館2階～5階
備品整備
- 世田谷キャンパスグラウンド整備
人工芝張替

世田谷キャンパス
グラウンド整備（人工芝張替）



■東京農業大学厚木キャンパス

- 空調設備更新
研究棟B棟1～7階
- 機器備品更新
第2講義棟デジタルプロジェクター更新
学生食堂厨房機器更新
自動火災報知機設備更新
中央監視装置更新
堆肥攪拌機更新
- 経年劣化年次改修
第2講義棟トイレ改修
- バイオセラピー学科温室前の側溝整備
- 伊勢原農場整備
防油堤及びオイルタンク移設
- 富士農場整備
繁殖牛舎屋根改修
肥育牛舎の補強

世田谷キャンパス
学部改組に係る備品整備
NMR（分子構造分析装置）



■東京農業大学オホーツクキャンパス

- 機器備品更新等
映像・音響機器改修（2号館2-204教室）
コンピュータ演習室映像機器及び音響機器改修
1号館ボイラー更新
中央制御装置更新
- 経年劣化年次改修等
地下貯蔵タンク改修
2号館2階・3階トイレ改修
9号館食品加工技術センター外壁改修
2号館・5号館・8号館研究室実験エリア床補修

オホーツクキャンパス
9号館食品加工技術センター外壁改修



■東京情報大学

- 看護学部設置事業
看護実習棟建設
- 総合情報学部改組
4号館1階、1号館2階サーバー室高速LAN環境整備
7号館学生研究室改修
- 経年劣化年次改修等
1号館1階・3階、3号館体育館1階トイレ改修

東京情報大学
看護実習棟建設



■東京農業大学第一高等学校・同中等部

- グラウンド防球ネット嵩上げ工事
- グラウンド照明・安定器交換
- 空調設備更新
3号館大講義室、理科系各実験室等3号館内各室
- 3号館1階第一PC教室のPC更新
- 1号館ICT化に伴う電子黒板導入



東京農業大学第一高等学校・同中等部
第一PC教室のPC更新

■東京農業大学第二高等学校

- テニスコートネットフェンス、欠損更新工事
- 空調設備更新
昭和棟・体育館空調設備更新
- 部室棟改修



■東京農業大学第三高等学校・同附属中学校

- 自動火災報知設備更新
- 教職員用パソコン・サーバー更新
- 第二体育館1階照明取替工事

■東京農業大学稲花小学校

- 小学校校舎建設事業

施設の概要

- | | |
|---------|----------------------------|
| ① 校地総面積 | 8,907.67 m ² |
| ② 校舎総面積 | 7,374.73 m ² |
| ③ 構造 | 鉄筋コンクリート造
(地上4階、地下1階) |
| ④ 着工 | 平成28年12月
(完成予定：平成30年4月) |

東京農業大学稲花小学校
校舎（完成予想図）



6 平成 28 年度卒業生進路 (学校別)

大学・短大

(平成29年4月30日現在)

(単位:人)

学部・学科 区分		東京農業大学																						
		農学部				応用生物科学部					地域環境科学部				国際食料情報学部				生物産業学部					
		農学	畜産学	バイオセラピー学科	計	バイオサイエンス学科	生物応用化学科	醸造学	栄養科学科	計	森林総合科学科	生産環境工学科	造園学	計	国際農業開発学	食料環境経済学	国際バイオビジネス学	計	生物生産学	アクアバイオ学	食品香粧学	地域産業経営学	計	
卒業生数		250	212	162	624	168	157	171	92	86	674	156	159	177	492	151	247	205	603	116	88	103	94	401
就職	企業・団体等	194	171	127	492	121	127	146	88	73	555	121	142	151	414	117	216	166	499	88	71	93	80	332
	自営	16	7		23	2		1			3	5		3	8	4	4	5	13	7			3	10
進学	大学院・大学	15	19	11	45	38	24	18	3	9	92	12	8	10	30	9	5	12	26	10	11	6	2	29
	短大				0						0				0				0			1		1
	専門・専修・海外留学	2		3	5						0	2		1	3	3	1	4	8				1	1
科目等履修生・研究生		3	1	3	7						0	6	1	1	8	2			2	1	1		1	3
研修生・実習生		4			4						0				0	1	1		2					0
その他		16	14	18	48	7	6	6	1	4	24	10	8	11	29	15	20	18	53	10	5	3	7	25

(単位:人)

学部・学科 区分		東京農業大学 短期大学部				東京情報大学 総合情報学部					
		生物生産技術学	環境緑地学	醸造学	計	総合情報学	情報ビジネス学	環境情報学	情報システム学	情報文化学	計
卒業生数		133	80	95	308	371	3	5	9	7	395
就職	企業・団体等	46	32	25	103	296	3	1	6	3	309
	自営	7	1	2	10	4					4
進学	大学院・大学	56	30	52	138	5		1			6
	短大			1	1	1					1
	専門・専修・海外留学	9	4	6	19	1					1
科目等履修生・研究生		4	3		7	3					3
研修生・実習生		3		1	4						0
その他		8	10	8	26	61		3	3	4	71

学校法人 東京農業大学 2016

高校

(平成29年4月30日現在)

(単位:人)

区分		学校	東京農業大学 第一高等学校	東京農業大学 第二高等学校	東京農業大学 第三高等学校	
卒業		者数	344 (151)	582 (283)	422 (140)	
進 学	大 学	東京農業大学	16 (10)	44 (12)	107 (22)	
		東京情報大学	0 (0)	1 (1)	2 (1)	
		他 大 学	231 (112)	353 (189)	243 (99)	
		計	247 (122)	398 (202)	352 (122)	
				71.8%	68.4%	83.4%
	短 大	短 大	1 (1)	30 (24)	2 (1)	
計		1 (1)	30 (24)	2 (1)		
			0.3%	5.2%	0.5%	
		専修・各種学校	3 (2)	51 (34)	20 (9)	
			0.9%	8.8%	4.7%	
就職		者数	0 (0)	3 (1)	2 (0)	
			0.0%	0.5%	0.5%	
その他 (家事等)			93 (26)	100 (22)	46 (8)	
			27.0%	17.2%	10.9%	

注1) ()内は女子内数。

中学

(平成29年4月30日現在)

(単位:人)

区分		学校	東京農業大学 第一高等学校中等部	東京農業大学 第三高等学校附属中学校
卒業		者数	181 (83)	51 (28)
進 学 校	高 校	東京農業大学第一高等学校	174 (79)	— (—)
		東京農業大学第三高等学校	— (—)	50 (27)
		そ の 他	7 (4)	1 (1)
	計	181 (83)	51 (28)	
			100.0%	8.8%
就職		者数	0 (0)	()
			0.0%	0.0%
その他 (家事等)			0 (0)	()
			0.0%	0.0%

注1) ()内は女子内数。

7 平成 29 年度入学試験（推薦・一般・センター入試等の合計）

(単位:人)

学校名等		志願者	受験者	合格者
大学院 農学研究科	農学専攻	20	20	12
	畜産学専攻	19	19	17
	バイオセラピー学専攻	11	11	11
	バイオサイエンス専攻	45	45	37
	農芸化学専攻	27	27	25
	醸造学専攻	30	29	21
	食品栄養学専攻	19	19	17
	林学専攻	14	13	10
	農業工学専攻	10	10	10
	造園学専攻	17	16	10
	国際農業開発学専攻	22	21	21
	農業経済学専攻	6	6	5
	国際バイオビジネス学専攻	13	13	12
	環境共生学専攻	1	1	1
	計	254	250	209
大学院 生物産業学研究科	生物産業学専攻	2	2	2
	生物生産学専攻	5	4	3
	アクアバイオ学専攻	11	11	7
	食品香粧学専攻	7	7	7
	産業経営学専攻	8	8	8
計	33	32	27	
大学院合計		287	282	236
農学部	農学科	3,443	3,309	910
	畜産学科	1,938	1,892	682
	バイオセラピー学科	1,922	1,879	600
	計	7,303	7,080	2,192
応用生物科学部	生物応用化学科	2,986	2,887	704
	醸造科学科	2,498	2,441	560
	食品安全健康学科	2,004	1,956	545
	栄養科学科	1,844	1,793	333
計	9,332	9,077	2,142	
生命科学部	バイオサイエンス学科	3,469	3,370	709
	分子生命化学科	1,316	1,226	425
	分子微生物学科	1,942	1,896	493
	計	6,727	6,492	1,627
地域環境科学部	森林総合科学科	1,643	1,596	438
	生産環境工学科	968	948	332
	造園科学科	1,269	1,247	344
	地域創成科学科	1,573	1,539	310
計	5,453	5,330	1,424	
国際食料情報学部	国際農業開発学科	1,090	1,061	430
	食料環境経済学科	1,434	1,398	476
	国際バイオビジネス学科	1,073	1,054	383
	国際食農科学科	1,339	1,303	276
計	4,936	4,816	1,565	
生物産業学部	生物生産学科	678	664	313
	アクアバイオ学科	587	567	260
	食品香粧学科	541	530	284
	地域産業経営学科	295	289	209
	計	2,101	2,050	1,066
学部合計		35,852	34,845	10,016
大学総計		36,139	35,127	10,252

学校名等		志願者	受験者	合格者	
東京 情報 大学	大学院総合情報学研究科	総合情報学専攻	11	9	8
	大学院計		11	9	8
	総合情報学部	総合情報学科	799	784	753
	看護学部	看護学科	420	393	250
	学部合計		1,219	1,177	1,003
	大学総計		1,230	1,186	1,011
東京農業大学第一高等学校		765	737	530	
東京農業大学第二高等学校		1,821	1,819	1,725	
東京農業大学第三高等学校		975	974	955	
東京農業大学第一高等学校中等部		1,664	1,328	490	
東京農業大学第三高等学校附属中学校		324	215	181	

IV 財務の概要

平成 28 年度決算について、その概要を報告します。

1 資金収支計算書

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいいます。)の収入・支出のてん末を明らかにするものです。

平成 28 年度の資金収支決算は、次表のとおりです。

資金収支総括表

(単位:百万円)

科目	年度	平成28年度		
		予算(1)	決算(2)	差異(1)-(2)
資金収入	学生生徒等納付金収入	20,841	20,773	68
	手数料収入	759	941	△ 182
	寄付金収入	308	311	△ 3
	補助金収入	2,643	2,720	△ 77
	資産売却収入	104	104	0
	付随事業・収益事業収入	678	658	20
	受取利息・配当金収入	136	69	67
	雑収入	495	641	△ 146
	各種特定資産の取崩	2,695	2,800	△ 105
	前受金・預り金収入等	6,179	5,953	226
前年度繰越支払資金	19,988	19,988	0	
収入の部合計(A)	54,826	54,958	△ 132	
資金支出	人件費支出	12,650	12,614	36
	教育研究経費支出	8,135	7,012	1,123
	管理経費支出	1,893	1,630	263
	借入元利金支出	0	0	0
	施設・設備関係支出	4,227	3,814	413
	各種特定資産の積立	4,697	4,733	△ 36
	預り金支出等	6,448	5,856	592
支出の部合計(B)	38,050	35,659	2,391	
翌年度繰越支払資金(A)-(B)	16,776	19,299	△ 2,523	

平成 28 年度の資金収入総額は、54,958 百万円で予算対比 132 百万円の収入増となりました。この増加の内訳は、経常収入 254 百万円増、各種特定資産の取崩 105 百万円増、前受金・預り金収入等 226 百万円減です。

資金支出総額は、35,659 百万円で予算対比 2,391 百万円の支出減となりました。この減少の内訳は、経常支出 1,422 百万円減、施設・設備関係支出 413 百万円減、各種特定資産の積立 36 百万円増、預り金支出等 592 百万円減です。

以上の結果、平成 29 年度へ繰越す翌年度繰越支払資金は、19,299 百万円で、予算対比 2,523 百万円の増加、前年度対比 689 百万円の減少となりました。

— 活動区分資金収支計算書 —

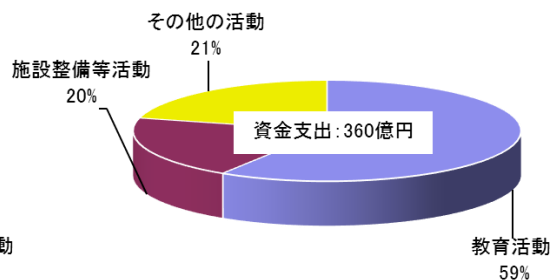
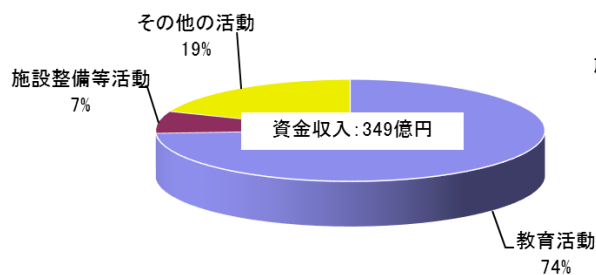
「活動区分資金収支計算書」は、「資金収支計算書」を、活動区分(教育・施設整備等・その他)に組み替えて記載し、区分ごとの資金の流れを明らかにするものです。

- ①「教育活動」: 学校の本業である教育活動の収支状況を見ることができます。
- ②「施設整備等活動」: 主に施設設備投資とその財源がどうかを見ることができます。
- ③「その他の活動」: 借入金の収支、資金運用の状況等、主に財務活動を見ることができます。

活動区分資金収支総括表

(単位:百万円)

科目	年度	平成28年度		
		予算(1)	決算(2)	差異(1)-(2)
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	25,353	25,717	△ 364
	教育活動資金支出計	22,674	21,256	1,418
	差引	2,679	4,461	△ 1,782
	調整勘定等	225	626	△ 401
	教育活動資金収支差額	2,904	5,087	△ 2,183
施設整備等活動による資金収支	施設整備等活動資金収入計	2,698	2,556	142
	施設整備等活動資金支出計	7,742	7,327	415
	差引	△ 5,044	△ 4,771	△ 273
	調整勘定等	△ 38	△ 245	207
	施設整備等活動資金収支差額	△ 5,082	△ 5,016	△ 66
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 2,178	71	△ 2,249
その他の活動による資金収支	その他の活動資金収入計	6,500	6,663	△ 163
	その他の活動資金支出計	7,178	7,423	△ 245
	差引	△ 678	△ 760	82
	調整勘定等	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△ 678	△ 760	82
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 2,856	△ 689	△ 2,167
前年度繰越支払資金		19,988	19,988	0
翌年度繰越支払資金		17,132	19,299	△ 2,167



2 事業活動収支計算書

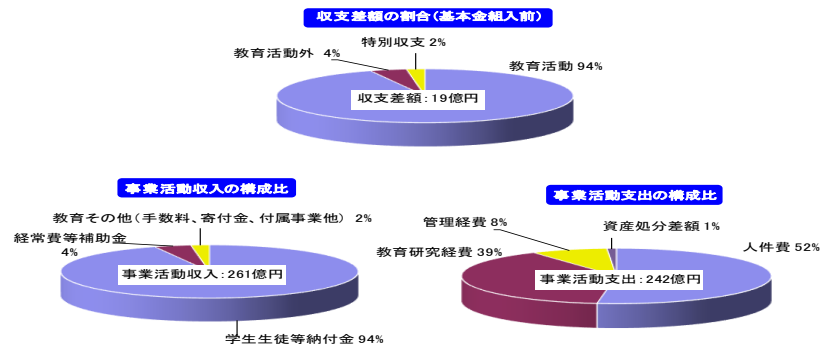
「事業活動収支計算書」は、当該会計年度の教育・研究その他の諸活動を「教育」、「教育外」、「特別」の3つの活動に区分し、区分ごとの収支内容並びに基本金組入額を含めた収支の均衡状態を明らかにするものです。

平成28年度の事業活動収支決算は、次表のとおりです。

事業活動収支総括表

(単位:百万円)

科目	年度	平成28年度			
		予算(1)	決算(2)	差異(1)-(2)	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	20,841	20,773	68
		手数料	759	941	△182
		寄付金	184	208	△24
		経常費等補助金	2,396	2,495	△99
		付随事業収入	678	659	19
		雑収入	495	646	△151
		教育活動収入計(A)	25,353	25,722	△369
	支出	人件費	12,658	12,537	121
		教育研究経費	10,559	9,424	1,135
		管理経費	2,202	1,938	264
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計(C)	25,419	23,899	1,520		
教育活動収支差額(A)-(C)		△66	1,823	△1,889	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	136	69	67
		その他	0	0	0
		教育活動外収入計(D)	136	69	67
	支出	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計(E)	0	0	0		
教育活動外収支差額(D)-(E)		136	69	67	
経常収支差額		70	1,892	△1,822	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	406	384	22
		特別収入計(F)	406	384	22
	支出	資産処分差額	84	283	△199
		その他の特別支出	0	53	△53
特別収支差額(F)-(G)	84	336	△252		
特別収支差額(F)-(G)		322	48	274	
予備費		166	0	166	
基本金組入前当年度収支差額		226	1,940	△1,714	
基本金組入額合計		△3,527	△2,528	△999	
当年度収支差額		△3,301	△588	△2,713	
前年度繰越収支差額		5,996	5,996	0	
基本金取崩額		5	67	△62	
翌年度繰越収支差額		2,700	5,475	△2,775	
事業活動収入計		25,895	26,175	△280	
事業活動支出計		25,669	24,234	1,435	



<経常収支>

経常収入合計は、25,791百万円で302百万円の収入増、経常支出合計は、23,899百万円で1,520百万円の支出減となりました。

結果、経常収支差額は、1,892百万円の収入超過で1,822百万円の増加となりました。

(1) 教育活動収支

教育活動収支差額は、1,823百万円の収入超過で、1,889百万円の増加となりました。

予算対比で収入増となった主な科目は、手数料941百万円、経常費補助金2,495百万円、雑収入646百万円です。一方、収入減となった科目は、学生生徒納付金20,773百万円です。

また、予算対比で支出減となった科目は人件費12,537百万円、教育研究経費9,424百万円、管理経費1,938百万円です。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収支差額は、69百万円の収入超過で、67百万円の減少となりました。

収入減となった主な科目は、受取利息・配当金69百万円です。

<特別収支>

特別収支差額は、48百万円の収入超過で、274百万円の減少となりました。

予算対比で収入増となった主な科目は、その他の特別収入384百万円です。一方、支出増となった科目は、資産処分差額283百万円です。

<事業活動収支>

事業活動収入合計は、26,175百万円で280百万円の増加、事業活動支出合計は、24,234百万円で1,435百万円の減少となりました。

基本金組入額は、2,528百万円で999百万円の組入増、基本金取崩額は67百万円で62百万円の取崩減となりました。

以上の結果、平成28年度の基本金組入前当年度収支差額は、1,940百万円の収入超過、当年度収支差額(基本金取崩後)は、521百万円の支出超過となりました。

翌年度へ繰越す翌年度繰越収支差額は、次式のとおり5,475百万円となりました。

当年度収支差額(基本金取崩後)	△521百万円
+	
前年度繰越収支差額	5,996百万円
<hr/>	
翌年度繰越収支差額	5,475百万円

3 貸借対照表

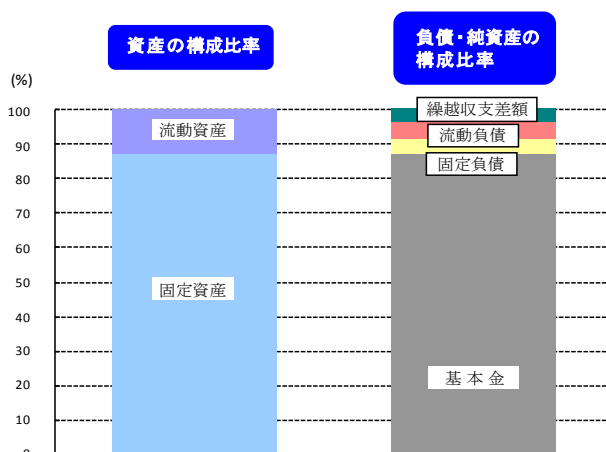
「貸借対照表」は、資産の部、負債の部、純資産の部を設け、資産、負債、純資産の科目ごとに、当該会計年度末の金額を前会計年度末の金額と対比して記載するものです。

平成 28 年度末の貸借対照表は、次表のとおりです。

貸借対照表

科目		平成28年度末(1)	平成27年度末(2)	増減(1) - (2)
資産の部	固定資産	134,647	131,589	3,058
	流動資産	20,247	20,933	△ 686
合計		154,894	152,522	2,372

科目		平成28年度末(1)	平成27年度末(2)	増減(1) - (2)
負債の部	固定負債	6,144	6,302	△ 158
	流動負債	7,527	6,937	590
	計	13,671	13,239	432
純資産の部	基本 金	135,748	133,287	2,461
	繰越収支差額	5,475	5,996	△ 521
	計	141,223	139,283	1,940
合計		154,894	152,522	2,243



平成 28 年度末の固定資産は、第 3 号基本金引当特定資産及び減価償却引当特定資産への積立等により前年度対比 3,058 百万円の増加となりました。また、流動資産は現金預金を中心に前年度対比 686 百万円の減少となりました。

一方、固定負債は長期未払金の減少等により前年度対比 158 百万円の減少となりました。また、流動負債は前受金の減少等により、前年度対比 590 百万円の増加となり、負債の部では前年度対比 432 百万円の増加となりました。

なお、上記固定資産の取得、「東京情報大学看護学部実習棟」及び「東京農業大学小学校」建設に伴う第 2 号基本金の組入れ等により基本金は前年度対比 2,461 百万円増加し、繰越収支差額は前年度対比 521 百万円の減少となりました。

4 財産目録

「財産目録は」は、学校法人が学校を校運営していくために必要な基本財産と運用財産を明らかにするものです。

一 資産

(単位:百万円)		(単位:百万円)	
基本財産	帳簿価格	運用財産	帳簿価格
(1) 土地	12,480	(1) 不動産	4,296
(2) 建物	48,480	(2) 電話加入権	12
(3) 構築物	3,782	(3) 有価証券	587
(4) 山林	203	(4) 東京農業大学教育奨学金長期貸付金	0
(5) 緑化樹木	272	(5) 長期貸付金	26
(6) 教育研究用機器備品	7,898	(6) 積立金	35,028
(7) 管理用機器品	352	(7) 現金	3
(8) 図書	3,838	(8) 預金	17,693
(9) ソフトウェア	5	(9) 未収入金	841
(10) 車両	55	(10) 貯蔵品	8
(11) 建物仮勘定	973	(11) 東京農業大学教育奨学金短期貸付金	1
(12) 積立金	16,235	(12) 短期貸付金	10
(13) 預金	1,603	(13) 短期有価証券	2
(14) 施設利用権	123	(14) 前払金	63
(15) 敷金補償金	1	(15) 立替金	4
計	96,300	(16) 動物	14
		(17) 植物	6
		(18) 紙型教材	0
		計	58,594

二 負債

(単位:百万円)		(単位:百万円)	
固定負債	帳簿価格	流動負債	帳簿価格
(1) 長期未払金	127	(1) 未払金	882
(2) 退職給与引当金	6,017	(2) 前受金	5,180
計	6,144	(3) 預り金	1,466
		計	7,528

三 正味財産

(単位:百万円)	
正味財産	帳簿価格
(1) 正味財産	141,223
計	141,223

5 資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表の経年比較

資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表の経年比較は、次表のとおりです。

(1) 資金収支計算書の経年比較

(単位:百万円)

科目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	21,618	21,053	20,973	20,850	20,773
	補助金収入	2,829	2,632	2,669	2,410	2,720
	その他の経常収入 *1	2,417	2,977	2,679	2,639	2,724
	前受金等その他 *2	10,633	11,360	6,919	9,289	8,754
	前年度繰越支払資金	21,648	22,406	22,278	21,445	19,988
	合計	59,145	60,428	55,518	56,633	54,959
支出の部	人件費支出	12,615	13,048	12,774	12,638	12,614
	教育研究経費支出	6,932	7,157	7,120	6,715	7,012
	管理経費支出	1,278	1,377	1,343	1,388	1,630
	施設・設備関係支出	4,534	4,734	1,943	3,506	3,814
	資産運用支出等他 *3	11,380	11,834	10,893	12,401	10,590
	翌年度繰越支払資金	22,406	22,278	21,445	19,988	19,299
	合計	59,145	60,428	55,518	56,636	54,959

*1 その他の経常収入

平成27年度以降(新会計基準):手数料収入、寄付金収入、資産売却収入、付随事業
収益事業収入、受取利息・配当金収入、雑収入。

平成26年度以前(旧会計基準):手数料収入、寄付金収入、資産運用収入、資産売却収入、事業収入、雑収入。

*2 前受金等その他

前受金収入、その他の収入、資金収入調整勘定。

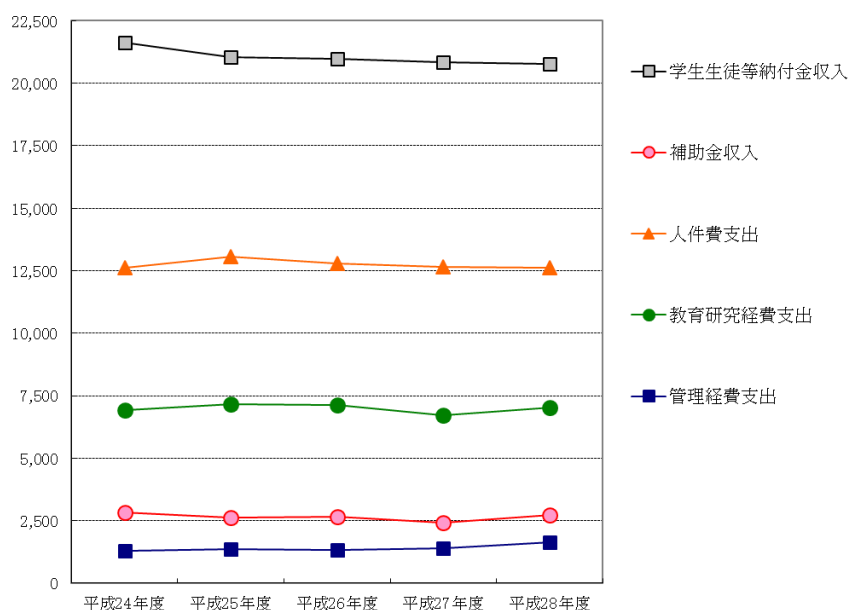
*3 資産運用支出等他

借入金等利息支出、借入金等返済支出、資産運用支出、その他の支出、資金支出調整勘定。

※ 経年比較の都合上、旧会計基準年度の科目は新会計基準の科目に組み換えて計上した。

主な収入支出科目の推移

(単位:百万円)



(2) 事業活動収支計算書の経年比較

事業活動収支計算書の経年比較 (単位:百万円)

科 目		参考値				平成28年度
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
教育活動 収支	教育活動収入計	26,766	26,416	26,041	25,510	25,722
	教育活動支出計	23,414	24,157	23,867	23,486	23,899
	教育活動収支差額	3,352	2,259	2,174	2,024	1,823
教育活動 外収支	教育活動外収入計	104	144	134	115	69
	教育活動外支出計	9	2	1	0	0
	教育活動外収支差額	95	142	133	115	69
経常収支差額		3,447	2,401	2,307	2,139	1,892
特別収支	特別収入計	78	47	220	294	384
	特別支出計	282	1,377	485	204	336
	特別収支差額	△ 204	△ 1,330	△ 265	90	48
基本金組入前当年度収支差額		3,243	1,071	2,042	2,229	1,940
基本金組入額合計		△ 2,829	△ 416	△ 678	△ 3,638	△ 2,528
当年度収支差額		414	655	1,364	△ 1,409	△ 588
前年度繰越収支差額		4,624	5,057	5,750	7,233	5,996
基本金取崩額		18	40	119	172	67
翌年度繰越収支差額		5,056	5,752	7,233	5,996	5,475

事業活動収入計	26,948	26,607	26,395	25,920	26,175
事業活動支出計	23,705	25,536	24,353	23,691	24,234

※経年比較の都合上、平成26年度以前(旧会計基準年度)の科目は新会計基準の科目に組み替えて計上した。

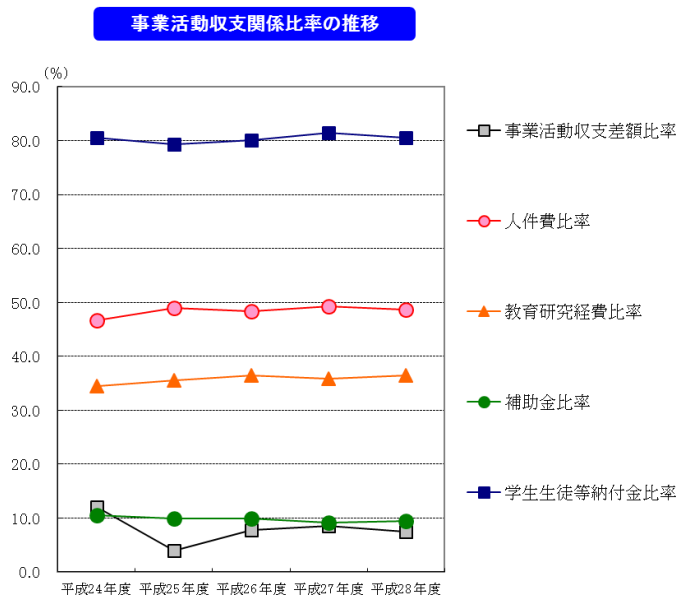
※平成24～25年度の「施設設備寄付金」及び「施設設備補助金」は教育活動収入の部に片寄せして計上した。

※平成27年度以降の金額は百万円未満を四捨五入して記載しているため合計額と一致しない場合がある。

事業活動収支関係比率の推移 (単位:%)

科 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
学生生徒等納付金比率	80.5	79.3	80.1	81.4	80.5
補助金比率	10.5	9.9	9.9	9.1	9.5
人件費比率	46.6	48.9	48.3	49.2	48.6
教育研究経費比率	34.5	35.6	36.5	35.8	36.5
事業活動収支差額比率	12.0	4.0	7.7	8.6	7.4
経常収支差額比率	12.8	9.0	8.8	8.3	7.3

※平成26年度以前の比率は、平成27年度からの新会計基準によって変更された比率に置き換えている。



(3) 貸借対照表の経年比較

資産の部 (単位:百万円)

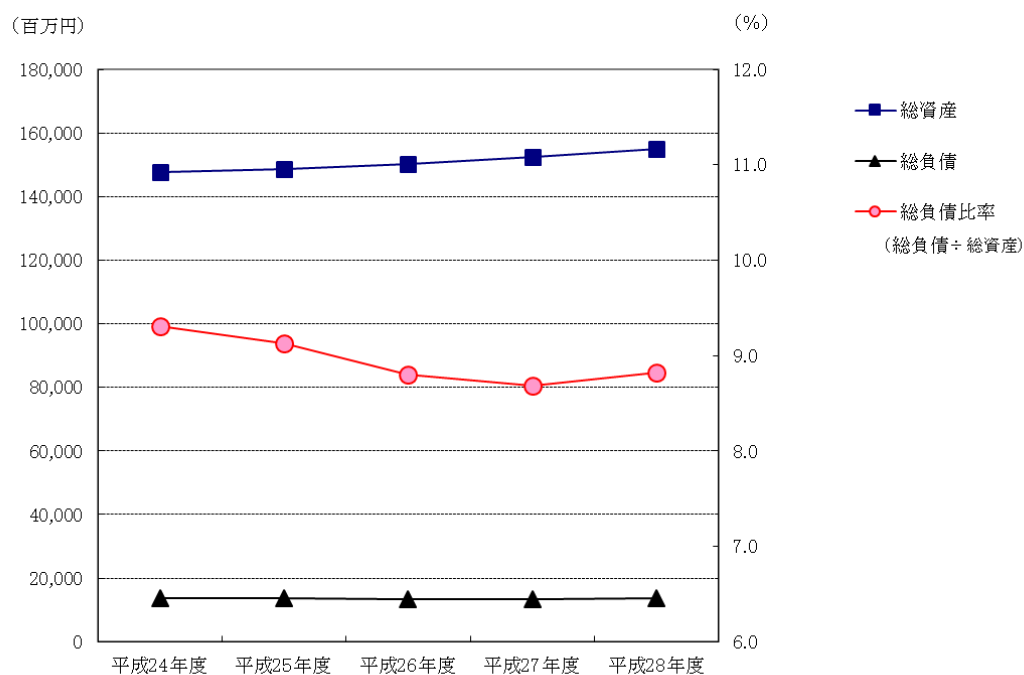
科目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
資産の部	固定資産	124,394	125,268	127,789	131,589	134,647
	流動資産	23,292	23,301	22,490	20,933	20,247
合計		147,686	148,569	150,279	152,522	154,894

負債の部・純資産の部 (単位:百万円)

科目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
負債の部	固定負債	6,615	6,363	6,225	6,302	6,144
	流動負債	7,128	7,194	6,999	6,937	7,527
	計	13,743	13,557	13,224	13,239	13,671
純資産の部	基本金	128,886	129,262	129,822	133,287	135,748
	繰越収支差額	5,057	5,750	7,233	5,996	5,475
	計	133,943	135,012	137,055	139,283	141,223
合計		147,686	148,569	150,279	152,522	154,894

※経年比較の都合上、旧会計基準年度の科目は新会計基準の科目に組み替えて計上した。

貸借対照表の推移



6 財務比率の経年比較

(1) 事業活動収支計算書財務比率の推移

(単位：%)

比 率 名	算 出 方 法	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	46.6	48.9	48.3	49.2	48.6
人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	58.0	61.7	60.3	60.5	60.4
教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	34.5	35.6	36.5	35.8	36.5
管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	6.0	6.4	6.3	6.6	7.5
事 業 活 動 収 支 差 額 比	$\frac{\text{基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	12	4.0	7.7	8.6	7.4
学 生 生 徒 等 納 付 金 比	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{経 常 収 入}}$	80.5	79.3	80.1	81.4	80.5
補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	10.5	9.9	9.9	9.1	9.5
経 常 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{経 常 収 支 差 額}}{\text{経 常 収 入}}$	12.8	9.0	8.8	8.3	7.3

(2) 貸借対照表財務比率の推移

(単位：%)

比 率 名	算 出 方 法	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
固 定 資 産 構 成 比 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	84.2	84.3	85.0	86.3	86.9
繰 越 収 支 差 額 構 成 比	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{負 債 + 純 資 産}}$	3.4	3.9	4.8	3.9	3.5
固 定 比 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	92.9	92.8	93.2	94.5	95.3
流 動 比 率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	326.8	323.9	321.3	301.8	269.0
総 負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	9.3	9.1	8.8	8.7	8.8
負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	10.3	10.0	9.6	9.5	9.7
内 部 留 保 比 率	$\frac{\text{内 部 留 保 資 産}}{\text{総 資 産}}$	38.1	38.3	39.9	40.5	40.9

※平成26年度以前の財務比率は、平成27年度からの学校法人会計基準改正によって変更された財務比率に置き換えて表示している。



SINCE1891

学校法人 東京農業大学